

## 和仏法律学校講義録

秋山, 雅之介 / 梅, 謙次郎 / 竹井, 耕一郎 / 勝本, 勘三郎  
/ 副島, 義一

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-1

(開始ページ / Start Page)

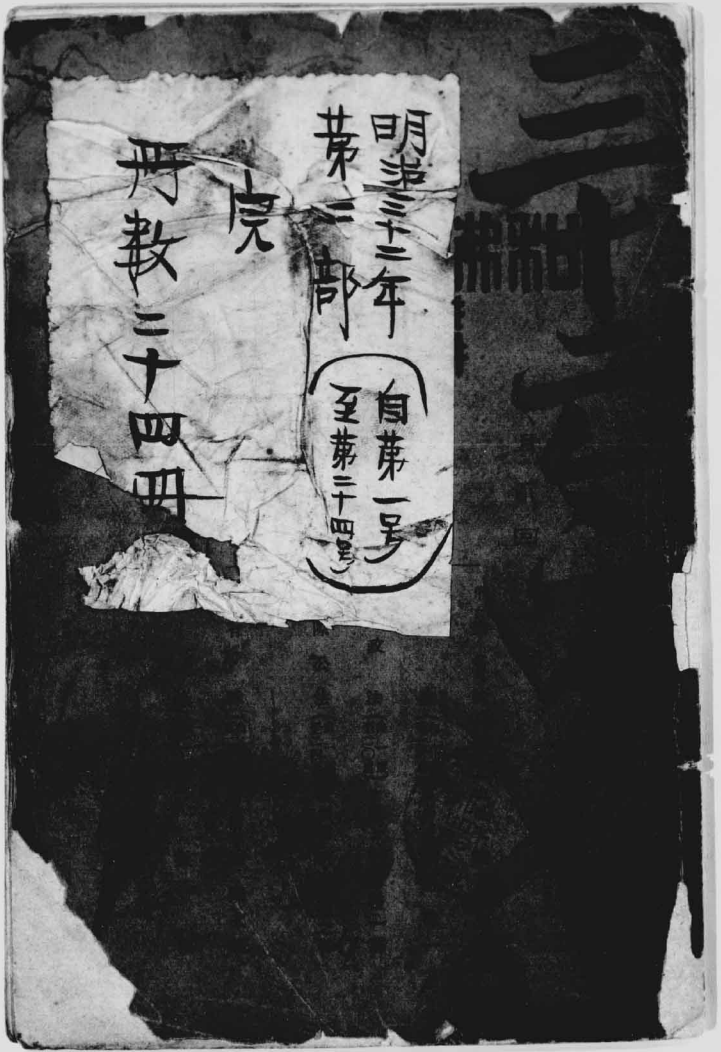
1

(終了ページ / End Page)

52

(発行年 / Year)

1899-02-15



明正十二年  
第一部

自第一号  
至第二十四号

完

册数三十四册



大  
宣

# 三 十 六 年

## 精 神 佛 教 學 論 義 集 覽

月  
氣  
回

目  
次

第  
壹  
號

雜

錄  
(自一至六頁)

數  
件

占  
有  
ノ  
訴  
(自一至六頁) 法學博士 梅謙次郎

國  
際  
公  
法  
(自二至四頁) 法學士 秋山雅之助

行  
政  
法  
(自一〇頁) 法學士 竹井耕一郎

憲  
法  
(自一六頁) 法學士 副島義一

刑  
法  
各  
論  
(自二二頁) 法學士 勝本壽三郎

本校革新ノ旨趣

失跡ノ宣告、夫婦財産契約ノ登記、禁治産、準禁治産、破産法、其他幾種ノ公告ハ  
近今奈何ニ官報欄面ニ幅濶セルカ。一片ノ出生、居遺産、相続ニ關スル手續ニ至  
ル迄其嚴密ヲ加ヘタルコト果シテ幾何ソヤ。願テ考フレバ六大法典既ニ行ハ  
ハ庶多ノ附屬法令及行政諸規則亦皆法律的編制ヲ見ル。期年ノ後人事ノ錯綜  
ハ更ニ之ヨリ大ナルモノアラン。尙フルニ條約ノ實施ユヨリテ法治ノ慣習  
ニ熱セル外人ノ雜居アリ。未タ曾テ法律ノ光ヲ仰カスレハ、焉ソク此間ニ處  
シテ晏如タルヲ得ンヤ  
夫レ法律學ハ法治國ノ普通學ナリ。東洋ノ開明國東洋唯一ノ法治國タ  
ル我國民ニシテ苟モ其分限ヲ辱カシメザランコトヲ思ハ、須ラク法律の智  
能ヲ備ヘサルヘカラス。本校ノ茲ニ見ル所アルヤ久シ。明治十八年以來卒業生  
ヲ輩クルコト數千人現在業ヲ所干有餘人。司法官ニ行政官ニ將タ民間政治家ト  
シテ社會ニ貢獻セル所敢テ鮮少ナラザルヲ知ル。然リト雖モ日月ノ來去ハ人  
業ヲ塊タス。日常ノ必要ハ遂ニ吾人ヲ驅リテ更ニ數層ノ奮勵ヲ促セリ。本校革  
新ノ旨趣實ニ此ニ存ス  
本校ハ革新ノ結果梅博士新ニ校長ノ職責ヲ荷ヒ、校務顧問富井博士ト俱  
ニ銳意戮力校務ハ刷新ヲ圖ラル。而已ナラズ法理學ニ於ケル穗積博士刑法新論ニ  
於ケル古賀學士其他金井一木松崎勝本寺尾富谷前田秋山等ノ諸博士皆是當世ノ泰  
斗ニシテ斯學ノ研鑽上學者ニ於テ毫末ノ遺憾ナカルヘシ。本校ノ期スル所一  
ニ我國法治教育ノ大業ヲ焦眉ノ間ニ於テ完フセントスルニ在リ矣。

刑法各論

法學士 勝本勸三郎 講述  
校友 竹内喜一郎 編輯

緒論

第一章 各論ノ必要

我刑法ハ全編ヲ分チテ四編ト爲シ第一編ニ各種ノ犯罪ニ通スヘキ總則第二編  
ニ公益ニ關スル重罪輕罪第三編ニ身體ニ對スル重罪輕罪第四編ニ違警罪ヲ規  
定セリ然レトモ今少シク其内容ニ入りテ之ヲ案スルトキハ我刑法ハ全編ヲ分チ  
テ二ト爲シ第一ヲ各種ノ犯罪ニス通ル總則第二ヲ各種ノ犯罪行爲及其制裁ト  
シ更ニ第二ヲ區分シテ第一ヲ重罪輕罪第二ヲ違警罪ト爲シ又更ニ其第一ヲ二  
分シテ一ヲ公益ニ關スルモノ一ヲ身體財產ニ關スルモノ即チ私益ニ關スルモ





ノトセリ今圖ヲ以テ之ヲ示サハ左ノ如ク

刑法 (一) 各種ノ犯罪ニ通スル總則 (二) 重罪、輕罪 (公益ニ關スルモノ)

(三) 各種ノ犯罪行爲及ヒ其制裁 (三) 違警罪 (私益ニ關スルモノ)

諸君ノ知ラル、カ如ク總則ハ各種ノ犯罪ニ通スヘキ法理ノ神髓ヲ網羅シタルモノニシテ譬ヘハ刑法々理ノ大本營トモ云フヘキモノナリ故ニ立法上ヨリスルモ又法理上ヨリスルモ其切要ナルハ多辯ヲ要セサルナリ然レトモ之ヲ以テ直ニ刑法ハ總則ヲ研究セハ足レリ各論ノ如キハ條文ヲ一讀セハ可ナリト云フヘカラス高遠ナル學理ノミノ研究ニ從事スル輩ハ往々此弊ニ陥ルモノアリ戒ムヘキナリ蓋シ刑法ノ總則ト各論トハ互ニ經タリ緯タリ二者相待テ茲ニ始メテ完全ナル研究ヲ遂クルヲ得ルモノニシテ何レヲ重シトモ何レヲ輕シトスルヲ得ス例之總則ノ研究ニ由リ如何ニ未遂犯ト豫備トノ區別ヲ明ニスルヲ得タリトテ我刑法第二編第一章ニ所謂危害トハ如何ナル事ヲ意味スルヤヲ知了セナレハ其規定ハ果シテ豫備ノ所爲ヲ罰スルモノナルヤ將タ未遂犯ヲノミ罰ス

ルモノナルヤヲ知ル能ハス隨テ總則ノ研究ハ全ク徒勞ニ屬セン又例之貨幣ヲ偽造若クハ變造シタル者アリトセンニ其偽造若クハ變造トハ如何ナル意義ナルヤヲ知得セザレハ假令總則ノ研究ニ由リ罪ニム犯意及ヒ之ニ伴ヒタル行爲アルヲ要スルモノタルコトヲ明ニスト雖モ到底之ノミニ依リテ完全ナル擬律ヲ爲スコトヲ得サルナリ由是觀之各論ト總則トハ互ニ相待テ始テ完全ナル應用ヲ見ルヘキモノニシテ各論ノ必要ハ決シテ總則ニ讓ラサルナリ

### 第二章 重罪、輕罪、違警罪ノ區別

本章ニ付テハ先ツ始メテ法典ニ於テ重罪、輕罪、違警罪ノ區別ヲ採用シタル佛國法典ノ規定ヨリ論究シ漸次我刑法々典ノ規定ニ論及スヘシ佛國刑法第一條ニ曰ク重罪ノ刑ヲ以テ罰スルモノハ「タリーム」(重罪ナリ) 輕罪ノ刑ヲ以テ罰スルモノハ「デリー」(輕罪ナリ) 違警罪ノ刑ヲ以テ罰スルモノハ「コント」(違警罪ナリ)ト此法文「タ」出テ、ヨリ彼ノ有名ナル刑法學者「ロシェ」氏ヲ始メ有方ナル學者ハ皆之ヲ非難セリ今其論點ノ重ナルモノヲ擧クテ左ノ二點ニ歸ス

第一 凡ソ罪ハ主ニシテハ刑ハ從ナリ罪ノ性質先ツ定マリテ而シテ後刑之

ニ伴フヘキモノナリ換言スレバ罪ノ性質ハ罪自體ニ於テ存在スルモノ  
ニシテ刑ニ依リテ存スルモノニアラス然ルニ佛國刑法第一條斯々ノ刑ヲ  
以テ罰スルモノハ重罪ナリ輕罪ナリ云々ト定義シタルハ是レ罪ノ重罪  
タリ輕罪タリ若クハ違警罪タルノ性質ハ自體ニ存スルモノニアラス  
テ刑ノ輕重若クハ種類ニ因リテ存スルモノナリトシタルモノニシテ恰  
モ長衣ヲ着スルモノハ大人ナリ短衣ヲ用ユルモノハ小人ナリト定義  
タルト一般畢竟原因結果ノ大則ヲ顛倒シタルモノナリ

第二 佛國刑法ニ所謂タリ一ム重罪及ヒテリ一輕罪ナルモノハ均シク是レ

同性質ノ犯罪ニシテ其間僅ニ輕重ノ差アルノミ夫ノ「コントラヴワン  
ヨン」違警罪「クرائم」重罪若クハ「デリー」輕罪ニ對スルカ如ク全ク別種ノ  
モノニアラス故ニ若ク強テ之ヲ區別セント欲セハ宜シク之ヲ「デリー」  
「ラーブ」重キ罪「デリー」レシエール「輕キ罪」又ハ「タリ一ム」カビタール「大罪」  
「タリ一ム」ノンカビタール「小罪」トシテ單ニ輕重若クハ大小ニノミ區別罪

ノ種別ト爲スヘキナリ然ルニ事茲ニ出テスシテ夫「コントラヴワン」  
ヨン「違警罪」ト他ノ犯罪トヲ區別シタルト同様ノ方法ニ依リ同性質ノモ  
ノヲ分チテ故ラニ「ラ」デリー「ト」シ「ラ」タリ一ム「ト」各自ニ各別ノ名稱  
ヲ付シ以テ別種ノ犯罪トシタルハ是レ大ナル誤ナリ

此批評ハ漸次歐洲刑法學者ノ一般ニ是認スル所ナリ其結果遂ニ近世ニ於テハ  
犯罪ハ之ヲ二分セテ罪ト科トスヘキモノニシテ佛國ノ如ク之ヲ三分スヘキモ  
ノニアラストスルニ至レリ是ニ於テカ我國ニ於テモ或ル一派ノ學者ハ直ニ右  
ノ學說ヲ採テ以テ我刑法ノ規定ヲ排斥セントスルモノアルカ如シ然レトモ是  
レ大ナル誤認ナリ今左ニ其理由ヲ陳セシ

(イ) 我刑法草案第一條ニ於テハ佛國刑法第一條ト同シク何ノ刑ヲ以テ罰ス  
ルモノハ重罪ナリ輕罪ナリ若クハ違警罪ナリト云フノ文字アリシカ故ニ  
若シ此條文カ我刑法ノ明文ニ採用セラレナハ到底佛國刑法ノ規定ニ對ス  
ル第一ノ非難ヲ免ルニ能ハサルノ恐アリト雖モ我刑法ハ佛國刑法若クハ  
我草案ト全ク其條裁ヲ異ニシ何レニ於テモ刑ニ於テ重罪、輕罪若クハ違警

罪ノ性質ヲ定メタル明文否聲ロ方法ノ如何ニ拘ラス重罪輕罪又ハ違警罪ノ定義ヲ下シタルノ法文アルコトナシ尤佛國刑法第一條及ヒ我草案第一條ノ規定ト稍相對比スヘキ刑法第七條第八條第九條ニハ左ニ記載シタルモノヲ重罪輕罪若クハ違警罪ノ主刑ト爲ス云々トアリ又第二條以下ニ於テハ單ニ某ノ所爲ハ某ノ刑ニ處ストアリテ彼は相參照スルトキハ茲ニ始メテ某ノ所爲カ重罪タリ輕罪タリ若クハ違警罪タルヲ知ルコトヲ得ルカ故ニ或ハ我刑法モ亦佛國刑法第一條及ヒ草案第一條ノ如ク刑ニ因リテ罪ノ性質ヲ定メタルモノニアラサルヤノ疑ヲ抱クモノアルヘシト雖モ如此ハ全ク皮相ノ見タルヲ免レヌ今仔細ニ佛國刑法第一條及ヒ草案第一條ノ規定ト刑法第七條乃至第九條ノ規定ヲ照比センニ彼ハ刑ニ因リテ罪自體ノ性質ヲ定メタルモノ換言スレハ何々ノ刑ヲ以テ罰スルモノハ重罪、輕罪若クハ違警罪トシテ立法上ノ定義ヲ揭ケタルモノナリ故ニ之ニ反シテ此ハ立法者カ重罪、輕罪若クハ違警罪タルモノニ科スヘキ刑ノ如何ナルモノナルヤヲ記載シ以テ法ヲ知ラント欲スルモノヲシテ立法者カ第二編以下ニ

六

於テ定メタル所ノ罪ノ重罪タルヤ輕罪タルヤ將タ違警罪タルヤヲ刑ノ種類輕重ニヨリテ知得セレメンカ爲メニ設ケタル規定ニシテ二者全ク相異レリ之ヲ要スルニ畢竟我刑法ノ規定ハ夫ノオングリ「刑法ニ於テ例之」天皇ニ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルモノハ重罪ト爲シ死刑ニ處ス、皇族ニ對シテ不敬ノ所爲アルモノハ輕罪ト爲シ何年何月以下ノ重禁錮ニ處ス」トアルト同一ニシテ毫モ相異ナル所ナシ唯其少シク之ト異ナルハ彼ニ於テハ各所爲毎ニ其重罪タリ若クハ輕罪タルコトヲ告ケルノ方法ヲ設ケ先ツ重罪、輕罪又ハ違警罪トスヘキ所爲ニ科スヘキ刑ヲ定メ法ヲ知ラント欲スルモノヲシテ第二編以下ト相參照シテ以テ其ノ所爲カ重罪タルヤ輕罪タルヤ將タ違警罪タルヤヲ知得セシムルノ便法ヲ取リシニ在ルノミ由是觀之佛國刑法ニ對スル第一ノ非難即チ刑ノ輕重若クハ種類ヲ以テ罪ノ性質如何ヲ定ムルモノナリトノ非難ハ直ニ採テ以テ之ヲ我刑法ニ施スヲ得ザルナリ

(ロ) 我刑法ハ罪ヲ分チテ重罪、輕罪、違警罪ト爲スカ故ニ其外形ニ於テハ恰モ

刑法各論

七

佛國ノ如ク犯罪ヲ三種ニ分チタルノ觀アリト雖モ其實決シテ然ラス先  
 モ述ヘタルカ如ク佛國ニ於テハ犯罪ヲ三分シテ一ヲ「クリーム」ニテ「デリー」  
 一ヲ「コントラヴワンション」トシ「クリーム」ト「デリー」トハ唯輕重ノ差異ニ  
 シテ實質ニ於テハ毫モ相異ナラサルニモ拘ラス各之ニ特種ノ名稱ヲ與ヘ  
 之ヲ「コントラヴワンション」ト同一ノ位置ニ置キ以テ「クリーム」ト「デリー」ト  
 ハ「コントラヴワンション」ノ「タリ」ニ若クハ「デリー」ニ於ケルカ如ク全ク各  
 別種ノ犯罪トシタリト雖モ我國ニ於テハ所謂重罪輕罪ナルモノハ讀テ字  
 ノ如ク一種ノ罪ヲ輕重ニ因リテ分類シタルモノニシテ一見性質上ノ分類  
 ニアラヌシテ程度ノ區別タルコト明瞭ナリ同性質ノモノヲ其輕重大小ニ  
 ヨリテ分類スルハ學理上敢テ非難スベキモノニ非ラサルノミナラス佛國  
 ノ規定ニ對シテ非難ヲ試ミタル學者ト雖モ未タ曾テ此點ニ異議ヲ唱ヘタ  
 ルモノニアルヲ聞カヌ由之觀之此點ニ對シテモ亦我刑法ノ規定ハ佛國ノ  
 規定ニ對スルト同様ノ非難ヲ以テ之ヲ攻擊スルヲ得サルモノト信ス  
 然ラハ重罪、輕罪及ヒ違警罪ノ區別ニ付キテハ我國ノ規定ハ毫モ非難スルキ點

ナキカ曰ク以上述ヘ來リタル二箇ノ點ニ付テハ我輩ハ別段之ヲ非難スベキノ  
 餘地アルヲ發見セスト雖モ我輩ハ此區別ニ付テハ點立法者ノ注意ヲ煩ハサン  
 ト欲スルモノアリ即チ他ニ非ス諸君ノ知ラルカ如ク違警罪ナルモノハ重罪若  
 クハ輕罪トハ全ク別異ノ性質ヲ有スルモノナリ然ルニ我刑法第一條ニ於テハ  
 「罪ヲ重罪、輕罪、違警罪トス」トアリ恰モ皆同一ノ性質ヲ有スルカ如ク規定セリ是  
 レ少クトモ外形上ノ瑕瑾アルヲ免レス故ニ我輩ハ此ノ如ク何レニ付テモ何  
 罪何罪トシテ常ニ罪ノ字ヲ用非恰モ同性質ノ者タルカ如クセシテ違警罪ト  
 重罪若クハ輕罪トニハ各々別異ノ名稱ヲ用非以テ其間判然タル區別アルヲ示  
 スヲ當然ナリト思惟ス而シテ今試ニ余カ卑見ヲ示テハ我法律ニ於テ違警罪ト  
 アルハ之ヲ訂正シテ單ニ科ト爲シ以テ之ヲ罪ニ對向セシメ罪ヲ分チテ重罪、輕  
 罪トスヘシト尙圖ヲ以テ示サハ左ノ如シニ  
 重罪、輕罪、違警罪トスルニ對シテ其間判然タル區別アルヲ示  
 罪トスヘシト尙圖ヲ以テ示サハ左ノ如シニ  
 重罪、輕罪、違警罪トスルニ對シテ其間判然タル區別アルヲ示



### 第三章 公罪私罪ノ區別

罪ヲ分チテ公私ノ二ト爲スコトハ遠ク其淵源ヲ羅馬法ニ汲ムモノナリ羅馬法ニ於テハ犯罪ノ責罰一般人民ノ利害ニ關係ヲ有スルモノニシテ且之ヲ訴追スルノ權一般人民ニ屬スルモノヲ公罪トシ之ニ反シテ其利害ハ獨リ害ヲ被フリタル者ノミニ止マリ被害者ノミ之ヲ訴追スルコトヲ得ルモノヲ私罪トセリ而シテ更ニ公罪ヲ小分シテ常罪大罪小罪ト爲シ其科スヘキ刑罰ノ法律勅令又ハ慣習ニ依リ豫メ規定セラレタルモノニシテ裁判官ニ於テ伸縮ノ自由ナキモノヲ常罪トシ其刑ノ輕重豫メ確定セスシテ裁判官ニ於テ被告人ノ身分及ヒ其他犯罪ノ性質及ヒ輕重ヲ考查シ自由ニ輕減加重ヲ得ルモノヲ非常罪トス又死刑流刑若クハ鑛山勞役等ノ刑ニ該ルモノヲ大罪トシ其他ノ身體刑若クハ財産刑ヲ科ス可キ加辱ノ刑ニ該ルモノヲ小罪トセリ其後中古ノ法制ニ於テハ學理上右ノ如キ犯罪ノ區別ヲ爲サ、又シト雖モ實際ニ於テハ公罪私罪大罪小罪ノ區別ヲ爲セリ而シテ中古ノ時代ニ於テハ善良ナル秩序及公ノ安寧ヲ害スル罪例之神又ハ君主若クハ國民ニ對スル大逆ノ罪異端ヲ信スル罪貨幣ヲ偽造スル罪

殺人ノ罪等ヲ公罪トシ公ノ安寧ヲ害スルヨリハ寧ロ被害者其人ノ利害ニ關係スル罪例之誣毀及暴行ノ罪等ヲ私罪トシ死刑ヲ以テ罰スルモノヲ大罪トシ其他ノモノハ刑ノ輕重ヲ問ハス凡テ之ヲ小罪トセリ降テ近世法典ノ父母トモ云フヘキ佛國法典ニ於テハ中古ノ法制ニ所謂大罪小罪ノ區別ハ之ヲ認メスト雖モ公罪私罪ノ區別ハ依然之ヲ採用セリ而シテ佛國ノ法典ニ於テハ犯罪ノ所爲直接ニ國家ノ公益ヲ害スルモノヲ公罪トシ其直接ニ一私人ヲ害スルモノヲ私罪トセリ此區別ハ佛國法ヲ繼受シタル歐米諸國及ヒ我國ノ法律ニ於テ採用セラレタリ然レトモ學者間ニ於テハ佛國ノ區別ト相對シテ別ニ種々ノ區別ヲ試ミタルモノアリ今先ツ其重ナルモノヲ列舉シ終ニ我法制ノ可否ヲ詳論スヘシ

第一「ベンザム」ヲ説ク氏ハ犯罪ヲ分チテ四種トシ第一ヲ私罪トシ私罪トハ或ル特定シタル一個人ニ對スルモノニシテ常ニ被害者ノ何人タルコトヲ指定シ得ルモノヲ云フ第二ヲ自害罪トシ自害罪トハ他人ヲ害スルコトナク自害スルモノ即チ例之不健康浪費自殺等ノ罪ヲ云フ而シテ此第一第二ハ各更ニ之

ヲ區別シテ人身ニ對スル罪、財産ニ對スル罪、榮譽ニ對スル罪、身分ニ關スル罪ノ四トス第三ヲ半公罪トシ半公罪トハ市町村組合若クハ會社等ニ對スルモノニシテ其害惡カ現在又ハ過去ニアラスシテ獨リ將來ニ存シテ未タ何人カ害ヲ受クルヤ明ナラサル罪、過去又ハ現在ナルトキハ被害者特定スルカ故ニ私罪ニ入ルヘシ云々例之市町村ノ堤防ヲ破壞シ又ハ其市町村ニ設定セラレタル傳染病豫防規則ヲ犯シ或ハ商工業其他ノ會社又ハ組合ノ名譽ヲ毀損シ又ハ財産ヲ掠奪セントスルカ如キ罪ヲ云フ第四ヲ公罪トシ公罪トハ國家ノ全員ヲ害スル罪ヲ云フ而シテ氏ハ此公罪ヲ更ニ小別シテ(一)國家ノ外部ノ安寧ニ關スル罪(二)警察ニ關スル罪(三)司法權ニ關スル罪(四)公ノ權力ニ對スル罪(五)人口ニ關スル罪(六)國庫ニ關スル罪(七)主權ニ對スル罪(八)道德ニ關スル罪(九)宗教ニ關スル罪等トセリ

此區別ハ凡ソ左ノ三點ニ於テ缺點アルモノトス

一 氏カ罪ノ公ナルト私ナルトヲ區別シタルハ抑モ如何ナル標準ニ據ルモノナルヤ害惡ノ社會全般ニ關スルト否トニ據ルカ將タ被害者ノ特定スル

トセザルトニ據ルカ若シ第一ノ標準ニ據ルモノトセハ普通ノ學說ニ於テハ一個ノ市町村會社若クハ組合ニ對スル犯罪ハ其害惡常ニ社會全般ニ關セザルカ故ニ當然之ヲ私罪ニ列セザルヘカラス若シ又第二ノ標準ニ據ルモノトセハ市町村會社又ハ組合ニ對スル犯罪ハ市町村會社又ハ組合ノ全員ニ關スルモノナルカ故ニ被害者ハ決シテ其中ノ某甲某又ハ乙某ナリト特定スルコトナシ隨テ常ニ公罪ニ列セザルヘカラス因テ惟フニ氏カ公私ノ區別ヲナシタルノ標準ハ獨リ第一ノ標準ニモアラス又獨リ第二ノ標準ニモアラス此二個ノ標準ヲ以テ各一個ノ條件ト爲シ此二個ノ條件ヲ具備スルヤ否ヤニ據リテ公私ヲ區別スル標準ト爲シタルカ如シ若シ余カ見解ニシテ誤リナクシハ氏ハ國家ノ外患警察、司法權等ニ關スル犯罪ハ社會ノ全員ニ關スル犯罪ナルト同時ニ被害者ノ何人ナルヤヲ指定スルコト能ハサルモノナルカ故ニ之ヲ公罪ニ列シ一個人ノ身體、財産、榮譽又ハ身分ニ關スル犯罪ハ社會ノ全員ニ關セザルト同時ニ被害者特定セルモノナルカ故ニ之ヲ私罪ニ列シ市町村會社、組合等ニ關スル犯罪ハ社會ノ全員ニ關セザル

モ被害者特定セザルモノ換言スレハ一部公罪タルノ要件ヲ具フルカ故ニ  
 半公罪トシタルナリ斯ク解釋シ來ルトキハ此區別ハ一見愛スヘキカ如キ  
 モ仔細ニ之ヲ觀察スルトキハ毫モ明瞭ナル區別ノ存スルモノナキヲ發見  
 スヘン今先ツ氏カ市町村會社又ハ組合ニ對スル犯罪ヲ以テ半公罪トシタ  
 ルノ理由ヲ研究セシニ先ニ述ヘタルカ如ク此等ノモノニ對スル犯罪ハ公  
 罪タルニ要スル條件ノ一即チ詳シク云ヘハ被害者ノ不特定タリトノ條件  
 ヲ具有ストノ唯一ノ理由ニ因ルモノナリ若シ假リニ氏ノ說ヲ以テ正當ナ  
 リトシ氏ノ理由ニ依リテ半公罪ト私罪若クハ公罪トヲ分別スルノ標識ト  
 センカ(一例之茲ニ兇人アリテ會社又ハ組合ヲ爲テハ一個人ニ對シ余ハ  
 某々十數名ノ中一人ヲ殺害スヘシト脅迫シタル場合ニ於テハ其害ハ氏カ  
 所謂未來ノモノニシテ被害者何人ナルヤ特定セス脅迫罪ハ其實現在ノ害  
 惡ナレトモ氏ハ之ヲ以テ未來ノ害ト云ヘルト市町村會社又ハ組合ニ對ス  
 ルモノニシテ常ニ未來ノ害惡ナルコトヲ要ス現在又ハ過去ナレハ被害者  
 特定スルカ故ニ私罪ナリト云ヘルヲ參照セヨ)隨テ半公罪ニ列セザルヘカ

ラサルナリ氏抑モ何か故ニ半公罪ハ市町村會社又ハ組合等ノ團體ニ對ス  
 ル場合ニ限ルトセザルハ其理由ヲ解スル能ハス(二)又一例ヲ舉ケンニ茲  
 ニ若シ君子ヲ害シタルモノアリトセンニ若シ氏カ標準ニ依ルトキハ一方  
 ニ於テハ君子ノ一身ハ國家全般ノ利害ニ關係ヲ有スレトモ又他ノ一方ヨ  
 リ觀察スルトキハ所謂直接ニ害惡ヲ受ケタルモノハ君主其人ニシテ被害  
 者ハ明ニ特定セルカ故ニ市町村會社若クハ組合ニ對スル場合ト同シク公  
 罪タルニ要スル條件ノ半具備スルモノトシテ之ヲ半公罪ニ列セザルヘカ  
 ラサルナリ然ルニ氏カ之ヲ主權ニ對スル罪トシテ公罪ノ中ニ列シタルハ  
 是レ何ノ故ソヤ余ハ其理由ヲ發見スル能ハス(三)又ハ(四)ハ(五)ハ(六)ハ(七)ハ(八)ハ(九)ハ  
 上來論究シタル所ニ依リ之ヲ案スルニ氏カ所謂半公罪ナルモノト他ノ犯罪  
 トノ區別ノ標準ハ甚タ漠然トシテ毫モ確然タルモノアルヲ見ス抑モ此ノ如  
 ク氏カ普通ノ學說ニ反シテ半公罪ナルモノヲ認メタルノ結果遂ニ之ト他ノ  
 犯罪トノ標界ニ不明瞭ヲ來シタル所以ノモノハ惟フニ氏ハ普通ノ學說ニ  
 所謂公罪即チ社會ノ全般ニ害ヲ與フル所ノ犯罪ハ犯罪ノ客體即チ犯罪行



爲カ其者ノ上ニ行ハレタル目的判然確定セザル場合多キニシテ若クハ公罪ハ例之君主ノ身體ニ對スル場合ノ如ク社會ノ全員ニ害ヲ受ケシムルトノ條件アラハ直チニ成立シ必シモ犯罪客體ノ不特定タルヲ要セス換言スレハ公罪ノ場合ニ於テ犯罪ノ客體ノ不特定ト云フコトハ多クハ場合ニ於テ社會ノ全員ヲ害スルト云フコトニ隨伴スル事實ナレトモ決シテ公罪成立ノ一要件ニアラサルコトヲ忘却シ直ニ取テ以テ凡テノ公罪ハ社會ノ全員ヲ害スルト云フコト、同時ニ必ス犯罪客體ノ不特定ト云フコト、ヲ伴フモノニシテ此犯罪ノ客體ノ不特定ト云フコトハ公罪成立ノ一要件ナルカ故ニ荷モ一個ノ犯罪ニシテ此要件ヲ具有スルモノアレハ常ニ多少公ノ性質ヲ有スルモノナリト誤認セタルニ因ルナリ

夫レ然リ氏ハ學說トシテハ犯罪客體ノ不特定ヲ以テ公罪成立ノ要件ト爲スニ拘ラス其之ヲ適用スルニ當リテハ荷モ社會ノ全員ヲ害スルコトアレハ常ニ必ス之ヲ公罪ニ列シ又犯罪客體ノ特定スルヤ否ヤヲ問ハサルナリ由之觀之此點ニ付テハ氏モ亦自ラ其誤レルヲ認ムルモノ、如シ仍テ今氏

カ犯罪種別ニ關スル考案ヲ訂正セハ氏ハ犯罪ヲ三分シテ自害罪、公罪、私罪トナスト云フニ歸着スヘシ

(二) 抑モ氏カ自害罪ナルモノヲ種別セタルハ是レ其犯行者自身ヲノミ傷害シテ他人ヲ害スルコトナキニ由ルナルハ是レ然ルニ自害罪ト相對立セシメタル自餘ノ犯罪ハ私罪タルト半公罪タルト公罪タルトニ論ナク均シク皆他人ヲ害スヘキ罪ナリ然ラハ先ツ罪ヲ大別シテ自害罪ト他害罪トノ二ト爲シ他害罪ヲ種別シテ之ヲ私罪半公罪及ヒ公罪トスヘキナリ然ルニ此區別ヲ爲サスシテ直ニ自害罪私罪半公罪公罪ヲ一様ニ列記シテ以テ犯罪ノ四大別トシ互ニ相對向セシメタルハ決シテ論理的ノ區別ト云フ可カラス加之我輩ノ見解ニ依レハ氏カ所謂自害罪ナルモノハ犯罪種別ノ一トシテ存在シ得ヘキモノニ非スト信ス如何トナレハ抑モ一個次カ自ラ自己ノ身體ヲ傷ケ又ハ財產ヲ浪費スルト云フコトハ之ヲ其者一人ヨリ見ルトキハ決シテ害ト云フヘキモノニアラス否假令之ヲ害トスルモ若シ社會カ之ニ固クテ害ヲ蒙ラズル下云フコトナクハ社會外之罰則ハ必要ナシ其之ヲ罰スル所堪ラズ

ハ社會ノ團體中ノ一人カ自ラ傷ケ自ラ害フト云フコトアレハ直ニ社會ハ之ニ因リテ害ヲ蒙ルカ故ナリ然ラハ其罪ト爲ルノ點ハ自害自體ニアラスシテ自害ニ因リテ他ヲ害スト云フニ在ルナリ若シ我輩ノ見解ニシテ誤ナクンハ氏カ所謂自害罪ハ自害罪ニ非スシテ他害罪ナリ而シテ其性質ハ一個人ヲ害スト云フモノニ非スシテ社會ノ公安、秩序ヲ害スルモノナルカ故ニ公罪ノ中ニ列スヘキモノナリ論シテ此ニ至レハ氏カ所謂犯罪ノ種別ハ普通學說ニ所謂公罪私罪ノ二ナリト云フニ歸着スヘシ

(三) 今假リニ數歩ヲ譲リテ氏カ分類ヲ以テ正當ナルモノトスルモ若シ之ヲ法典ニ採用スルニ至リテハ同性質ノ犯罪ヲ各部ニ分載セラル可カラサルノ結果徒ニ法條ヲ増加スルノミニシテ實用上大ナル不便ヲ生スヘシ

第二「シヤルハ、リユカース」ノ説ハ氏ハ犯罪行為ノ行ハレタル目的體ノ如何ニ因リテ罪ヲ三種ニ分ナ第一ヲ人ニ對スル罪、第二ヲ物ニ對スル罪、第三ヲ中間ノ罪トセリ

一見スルトキハ此區別ハ甚タ簡單ニシテ喜フヘキカ如シト雖モ余ヲ以テ之ヲ

見レハ是レ決シテ完全ナル區別ナリト言フヲ得ス如何トナレハ氏カ所謂中間ノ罪ナルモノハ其範圍極メテ汎博ニシテ例之政事的犯罪ノ如キ持兇器強盜罪ノ如キ放火洪水ノ罪ノ如キ風俗又ハ宗教ニ關スル犯罪ノ如キ荷モ第一種ニモ又第二種ニモ入ラサルカ若クハ第一種ト第二種トニ共屬スルモノハ凡テ罪質ノ如何ニ拘ラス皆此中ニ包含セシムルヲ得ヘク其結果却テ言フヘカラサル紛雜ヲ來スヘケレハナリ

第三「ロシ」ノ説 氏ハ罪ヲ大別シテ二ト爲シ一ヲ人ニ對スル罪ニテ財產ニ對スル罪トシ更ニ之ヲ公私ニ分類セリ

- (一) 人ニ對スル罪 (イ) 公ノ人ニ對スル罪 (ロ) 私ノ人ニ對スル罪
- (二) 財產ニ對スル罪 (ハ) 公ノ財產ニ對スル罪 (ニ) 私ノ財產ニ對スル罪

此分類ハ佛國並ニ我刑法ノ分類ト略相類似スルカ故ニ大體ノ評論ハ之ヲ次ニ譲リ茲ニ單ニ此分類ニ特殊ナル點ニ付テメシ評論ヲ試ムヘシ此分類ニ依ルトキハ「ロシ」氏ハ凡テノ罪ヲ公私ニ區別セントシタルノ結果遂ニ財產ニ對スル

罪ヲモ尙之ヲ公私ニ分類セリ抑モ此ノ如ク財産ニ對スル罪ヲモ尙之ヲ公私ニ分類シタルハ果シテ何等ノ必要アルニ因ルヤ余ハ之ヲ解スル能ハス蓋シ公ノ財産ヲ竊ムト私ノ財産ヲ竊ムトハ其之ニ科スヘキ刑罰ノ點ニ於テ多少輕重ヲ異ニスルコトアルヘシト雖モ其罪質ニ至リテハ共ニ均シク竊盜ノ罪ニシテ區別スルノ必要モ亦之レ有ラサルナリ然ルニ氏ノ如ク強テ分類スルハ實ニ無用ノ條文ヲ増加スルノミナラス其結果甚タシキ不便ヲ生スヘシ是レ此分類法ヲ學ヒタルハバ「リヤ」法典ヲ讀ム者ノ常ニ遺憾トスル所ナリ

以上ヲ以テ余ハ本問ニ關スル諸家ノ學說ヲ畧叙セリ是ヨリ尙進ンテ些カ我法典ノ分類ヲ評論セン

前ニモ述ヘタル如ク我法典ハ佛國ノ法典ニ倣ヒ其第二編以下ニ於テ各種ノ犯罪ヲ大別シテ二ト爲シ一ヲ公益ニ關スル重罪輕罪、一ヲ身體財産即チ私益ニ關スル重罪輕罪トセリ抑モ此區別ハ果シテ恰當ナルモノト云ヘキカ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ此區別モ亦非難ヲ免レサルモノナリ請フ左ニ之ヲ論述セン

(一) 我刑法并ニ佛國ノ刑法ハ或犯罪ハ直接ニ國家ヲ害シ他ノ犯罪ハ直接ニ

# 憲法

法學士 副島義一 講述  
校友 小田幹次郎 編輯

## 第一編 緒論

凡ソ憲法ノ法理ヲ研究セントスルニハ先ツ國家ノ觀念ヲ詳ニスルヲ要ス何トナレハ憲法ノ法理ノ解釋ニ種々意見ヲ異ニスルハ畢竟國家ノ觀念ニ付意見ヲ異ニスルニ基ツクヲ以テナリ故ニ予ハ憲法講義ノ順序トシテ先ツ最初ニ國家ノ觀念國家ノ種類國家ニ屬スル諸種ノ性質及憲法ノ定義等ニ付説明ヲ試ミン

下欲ス凡ソ此等ヲ説明ハ憲法ノ法理ヲ解シニ最必要ニシテ其實ハ憲法法理研

究ノ一部ヲ爲スモノナリ但此等ノ説明ハ簡單ニ之ヲ説明スヘシ

## 第一章 國家

### 第一節 近世ノ法理ニ於ケル國家ノ觀念

國家ハ諸學科ノ研究ノ目的物ト爲ルモノニシテ或ハ哲學、歷史學ノ研究ノ目的物ト爲ルコトアリ或ハ國家學、法律學ノ研究ノ目的物ト爲ルコトアリ國家ノ成立國家成立ノ起原又ハ其變遷ヲ研究スルハ歷史學ノ目的ニシテ一國ノ道義倫理國性ヲ研究スルハ哲學ノ範圍ニ屬シ國家ノ政治上ノ目的責任及其方法ヲ研究スルハ國家學、政治學ノ任ナリトス今茲ニハ國家ヲ法理學上ヨリ觀察セント欲スルナリ故ニ國家ニ關スル凡ヘテノ顯象ヲ研究スルニアラスシテ唯國家ヲ如何ニ定義セハ國家ニ關スル法律上ノ諸顯象ハ抵觸ナク之ヲ理會スルヲ得ルヤノ問ニ答フルニ過キサルナリ猶所有權ハ一般ニ何ナルカノ問ニ答フルモノニアラス所有權ハ如何ニ理會スヘキヤノ問ニ答フルモノナルト同シ此區別ヲ認メサレハ往々誤解ヲ生スルコトアリ

今茲ニ國家ノ觀念ニ付説明セントスレトモ固ヨリ古今ニ涉リテ一貫セル觀念

ヲ掲タルニアラス唯近世ノ法理上ノ觀念ニ於ケル國家ノ定義ヲ掲ケント欲スルナリ即チ國家ハ領地團體ニシテ獨立機關ヲ有スル原始的統治權ノ主格ナリ更ニ之ヲ解剖シテ説明セシム

第一 國家ハ領地團體ナリ凡ソ權利ノ主格ニ自然人アリ自然人ノ團體アリ自然ノ團體ニ一定ノ土地ヲ必要トセサルアリ土地ヲ基礎トシテ團結ヲ爲スアリ土地ヲ基礎トシテ團結ヲ爲ス人類ノ團體ヲ領地團體ト云フ領地團體ノ性質ハ左ニ掲タル所ニヨリ明ナリ

(一) 領地團體ハ多數人類ノ集合ヨリ成ル人類ハ即チ團體ノ自然的要素ニシテ人類ノ集合ナクシテハ國家ナル團體亦存スルコトナシ凡ソ國家及法律ハ人類ノ集合シテ共同生活ヲ營ムノ必要ヨリ生シタルナリ故ニ人類ノ集合ナクシテハ國家亦存スヘキ理ナシ唯其人數ハ一定スルコトナシ數千人アルモ數千萬人アルモ均シク團體タルヲ得其最小額ハ之ヲ確定スルヲ得サレトモ統治ノ關係ヲ生シ得ヘクシハ可ナリ

(二) 國家ナル領地團體ハ一定ノ領土ヲ以テ其成立ノ基礎トス蓋シ團體ハ人ノ

集合ヨリ成リ而シテ人ハ其存在ヲ保ツニ地球表面ノ一部分ヲ要スルモノナルヲ以テ土地ハ國家ノ自然的要素ナルコトハ固ヨリ論ナキ所ナリ然レトモ其一定ノ領地ヲ必要トスルヤ否ヤニ付キ議論アリ或學者ハ遊牧ノ人民ノ如キモ其荷クモ一ノ集合體ヲ形成スルモノナラハ之ヲ國家ト爲スヲ得ヘシト云ヘリ又他ノ一方ノ學者ハ遊牧ノ人民ハ一定ノ領地ヲ有セサルニヨリ之ヲ國家ヲ形成スルモノト爲スヲ得スト云ヘリ抑モ古代ニ於テ人口未タ甚シク繁殖セス土地ニ餘裕アリタルトキニ當リテハ固ヨリ一定ノ土地ヲ割シテ之ニ住スルノ必要ナク隨テ領土ノ觀念モ生スルコトナカリシナリ其後人民文化ノ進歩ニ伴ヒ人民ノ各種屬ハ一定ノ住居ヲ定ムルニ至リタルモ猶領土ノ觀念ハ未タ完全ニ浮フニ至ラザリシ例ヘハ普天ノ下率土ノ濱王土ニアラサルナリトノ思想モ行ハレテ領土ハ無限トセル時代モアリ又之ニ反シ法律ヲ發スルニモ唯或人種ヲ目的トシテ之ヲ發スルコトモアリ例ヘハ羅馬ニ在リテモ古代ニ於テハ羅馬法ハ羅馬人種ヲ支配スル法ニシテ羅馬國內ヲ支配スル法トハ爲サザリシ隨テ其領土ニ對スル觀念ハ未タ完全ニ發達セザリシナリ

斯ル時代ニ當リテハ甲派學者ノ說ハ其當ヲ失シタルモノト云フヲ得サルナリ然レトモ人文ノ發達ニ隨ヒ人口増殖シ人民種族益多クナルニ隨ヒ互ニ其區域内ニ在留スル者ニハ凡ヘテ支配ノ關係ヲ及ホスコトヲ肝要トス故ニ領土ハ自カラ必要のニ一定セラル、コト、ナレリ世界萬國ノ領土ノ區域一定セザランカ甲國ト乙國ト同一地域内ニ其作用ヲ及ホシ互ニ其生存ヲ完ウスル能ハサルニ至ルヘシ是ニ於テ今日ノ法律觀念ニ於テハ一定ノ領土ヲ以テ國家ノ要素ト爲スニ至レリ

(三) 領地團體ハ多數人類ノ結合セタル單位ノ共同團體ナリ前述ノ土地ト人トハ國家團體ノ基礎ナリ然レトモ土地ト人トノ存在ノミニテハ未タ之ヲ團體ト云フヲ得ス一定ノ土地内ニ多數人類ノ雖然トシテ個々獨立ニ生活スルノミニテハ之ヲ共同團體ト云フヲ得ス隨テ又斯ル人類ノ集合ニハ法律上ノ關係ヲ生スルコトナシ多數人類ノ集合ニシテ法律上ノ關係ヲ生スルニハ其單位ノ共同團體トシテ結合スルヨリ始マルモノナリ

多數人類ノ集合ヲ單位ノ共同團體ト云フハ頗ル理會シ難キニ似タリ然レトモ



人一タヒ人間生活ノ實際界ニ眼ヲ注カハ此ノ如キ理會ハ通常ノ事ナルヲ發見  
 セン蓋シ法律學ノ世界ハ人間ノ實際生活ノ世界ナリ法律學ハ物ノ自然ノ性質  
 ニ付研究ヲ爲スモノニアラス人間ノ實際生活ヲ支配スル規則ヲ研究スルモノ  
 ナリ法律學上ノ定義ハ目的物ノ本質ヲ説明スルモノニアラス全ク抽象的ノ觀念  
 ヲ理會スルニアリ又法律學ハ思想の世界ニ屬シ實物の世界ニ屬セス法律學ノ  
 世界ハ物自ラノ爲ノ世界ニアラスシテ吾人ノ爲ニ存スル世界ナリトス故ニ法  
 學ノ研究ハ主觀的ノ觀察ニ從フモノニシテ客觀的ノ觀察ニ從フモノニアラス  
 隨テ茲ニ單位ト云フモ亦主觀的ノ單位ナリ凡ソ單位ニ客觀的ノ單位アリ主觀的  
 單位アリ外界ニ於ケル客觀的ノ單位トハ空間ニ於テ一ノ境界ヲ有シ復分ツヘカ  
 ラサルモノヲ云フ故ニ科學的ノ觀察ニ於ケル純然タル單位ハ唯元素アルノミ之  
 ニ反シ主觀的ノ單位ハ人々隨意ニ之ヲ設クルニ因リテ生スルモノニシテ其數擧ケ  
 テ數フヘカラサルナリ此單位ヲ形式的單位ト云フ此中或ハ全ク形體ニ依ルコ  
 トアリ或ハ内部ノ目的ニ依ルコトアリ殊ニ人間共同生活ノ實際界殊ニ法律界ニ  
 於テハ事物ノ人ノ目的ニ對スル關係ヨリ單位ヲ立ツルコト最モ多シトス例ヘハ

形體上分離セルモノモ目的ニヨリ單位ト看做サルコトアリ例ヘハ家畜、書庫  
 ノ書籍ノ如キ經濟上ノ利益ノ爲ニ之ヲ單位トシテ法律上ノ取扱ヲ受クルアリ又  
 包括財產(相續財產)ノ如キ相續者ノ財產ヲ保護スル爲ニ之ヲ單位ト爲スコトア  
 リ故ニ目的ニ因リテ物ノ單位ヲ立ツルコトヲ得目的ノ考ナクシテハ只分子ノ集  
 合ノミニシテ物ハナキナリ科學的ノ考ニテハ只元素アルノミ唯之ヲ目的ニ由  
 テ形成セラレタルモノト考ヘテ初メテ一個ノ物アルノミ例ヘハ自然的ノ觀察  
 ニ從ハ、椅子、家等アルコトナク唯木、金、土等ノ物アルノミ猶又木、石、金、土等  
 ノ物アルコトナク唯炭素、窒素等ノ元素アルノミ唯此等ノ物質ノ一定ノ形體ニ  
 組立テラレタルモノカ一定ノ使用ニ供セラル、目的ニヨリ初メテ人間生活ノ  
 實際界ニ於テ椅子、家等ヲ單位ノ一個ノ物ト理會スルコトヲ得ルノミ此ノ如ク  
 目的ニ因リ多數ノ物ヲ單位トスルハ吾人ノ實際生活界ニ於ケル理會法ナリ此理  
 會法ハ法律界ニ於テモ適用セラル、モノナリ多數ノ人間モ亦目的ニ因リ一致  
 セル單位ト理會スルコトヲ得ヘシ兵營ノ前ニ立ツ番兵ノ甲乙ハ一時間毎ニ交  
 代スルモ番兵ハ決シテ中絶スルコトナシ家族又ハ會社ノ如キ自然的ノ觀察ニ

從ハハ一個人カ時ヲ異ニシテ個々ニ存在スルモノナレトモ其共同ノ目的ヲ有  
スル所ヨリ理會スレハ之ヲ一致シタル單位ト見ルコトヲ得

多數人類ノ集合體モ亦人事ノ實際界殊ニ法律界ノ考ニテハ之ヲ單位ト理會ス  
ルコトヲ得多數ノ人類ハ地球表面ノ分界セラレタル一部分ノ上ニ其基ヲ開キ  
此分界セラレタル地上ニ住居シテ永久ノ制度ヲ立テ以テ共同ノ生活目的ヲ達  
スルモノナリ團體ヲ組織スル個々ノ人ハ常ニ變換スト雖モ同一ノ領域内ニ於  
テ共同ノ生活目的ヲ達スルモノナルニ吾人ノ實際生活界法律界ノ考ニテハ  
之ヲ單位トモノト理會スルコトヲ得ルナリ

(四) 領地團體ハ人格ヲ有ス人格トハ權利ノ享有者タルヘキ能力ヲ云フ一言ニ  
言ヘハ權利能力ナリ凡ソ人格ハ法規ニ基キ生スルモノニシテ自然ニ生スルモ  
ノニアラス故ニ自然ノ人格アルコトナシ唯法律上ノ人格アルノミ隨テ自然ノ  
人モ必スシモ人格ヲ有スルモノニアラス羅馬ノ奴隸ノ如キ即チ然リ又自然ノ  
人ニアラサル共同團體モ人格ヲ有スルコトヲ得ヘシ故ニ人格ハ自然人ノ成分  
及動作ヲ指シテ云フニアラス人格ハ一ノ主格カ他ノ主格ニ對スル法律上ノ關

係ニ於テ之ヲ理會シ得ルノミ人格ハ多數人ノ交互ニ恒久ノ關係ニ立ツニ於テ  
生スルナリ領地團體モ他ノ主格ニ對シ權利能力者タリ領地團體モ他ノ主格ニ  
對シ法律上ノ關係ニ立ツモノナリ此ノ如ク法律上ノ關係ハ物質ニアラザルヲ  
以テ之ヲ耳目的ニ觸覺スルヲ得スト雖モ其實際ニ存在スルコトハ思想上之ヲ  
理會シ得ヘシ請フ見ヨ國際法上條約ノ當事者又ハ權利ノ主格タル者ハ君主若  
クハ大統領ノ一個人ニアラスシテ共同團體タル國家ナリ國內ニ於ケル統治者  
タル人ニ如何ノ變動アルモ國家ノ權利義務ハ常ニ同一ナリ嘗テ佛蘭西共和國  
カ國體ノ變更セルコトヲ理由トシテ以前ニ負フタル國際上ノ義務ヲ免レシト  
セシモ他國ヨリ法律違反トシテ斥ケラレタルリ

若シ領地團體ナル國家カ人格ヲ有セス隨テ統治權ノ主格ニアラスト爲ストキ  
ハ數多ノ理會スヘカラザル點ヲ生スヘシ例ヘハ彼ノ身上連合ノ如キ同位ノ君  
主ヲ數ク數國ハ之ヲ數個ノ獨立セル國家ト理會スルハ甚タ難カルヘシ人民共  
同團體ヲ單位ノ人格トセス君主ヲ以テ統治權ノ主格ト爲シ人民共同體ヲ統治  
者ト下ニニ集合致スル目的物ナリ

憲法

九

體其物ノミヲ以テ獨立ノ單位ヲ形成スルヲ得ス隨テ一國家ヲ組織スル能ハサルカ故ニ此數團體ハ唯同一君主ノ統治權ノ目的物ト爲リテ到底數個ノ國家アリト爲スヲ得サルニ至ルヘシ或ハ此場合ニ其同一君主ハ甲國ノ統治權ノ主格タル資格ト乙國ノ統治權ノ主格タル資格ト二個ノ資格ヲ有ストノ說ヲ立ツルモノアルヤモ知ルヘカラスト雖モ一人ニシテ同種類ノ二個ノ異ナル人格ヲ有シ一人ノ發表シタル意思ノ或ハ甲ノ人格ノ作用ト爲リ或ハ乙ノ人格ノ意思作用ト爲ルトハ如何レテ之ヲ區別シ得ルカ反對者ハ或ハ意思發表者ノ主觀的ノ決定ニ依ルヘシト言ハン然レトモ結局双方ノ人格ノ作用ヲ爲ス意思ハ同一人ノ意思ニ歸スルヲ以テ此兩國ハ一國ト爲ルト云フヨリ外ナカルヘシ然ルニ身上運合ハ唯偶然同一ノ君主ヲ戴クニ止マリ決シテ之カ爲一個ノ國家ト爲ルモノニアラサルコトハ國家法上及國際法上ニ於テ少シモ異論ナキ所ナリ若レ此場合ニ於テ君主ノ發表スル意思ハ同一ノ人ノ意思ニ外ナラザレトモ其甲ナル國土人民ノ爲ニ發表セハ甲ナル國家ノ意思作用ト爲リ乙ナル國土人民ノ爲ニ發表セハ乙ナル國家ノ意思作用ト爲ルト云フモノアラハ則是人民共同團體ノ

獨立セル單位ノ人格ナルコトヲ認ムルニアラスンハ之ヲ主張シ得サルヘシ何トナレハ是レ君主ノ發表セル意思作用ノ甲タリ乙タル性質ヲ定ムルモノハ單ニ君主ノ意思ヲ標準トスルニアラスシテ人民共同團體其物カ之ヲ決スル目標トナレハナリ若シ此ノ如ク君主ノ身上ニ依リ連合セル數國ハ其同一ノ君主ヲ戴クニ拘ハラズ之ヲ各殊ナル國家ナリトスルヲ得ルトセハ則チ其國家ハ一人ノ君主ニ關セス各其國家ヲ形成スル土地ヲ基トセル人類ノミニテ一ノ共同團體タル人格ヲ爲スモノト云ハサルヘカダズ此團體カ互ニ獨立シテ存在スルヲ以テ君主ハ同一ナルモ之ヲ兩國ト爲スヲ得ルナリ等シク同一ノ君主ノ行フ國權ノ作用ニシテ一ハ甲國ノ作用ト爲リ一ハ乙國ノ作用ト爲ルハ國權ノ主體ノ異ナルニ依ラスンハアラス夫レ斯ノ如ク一國ニハ各其固有ノ國權アリテ此國權ハ共同團體ノ爲ニ行フモノナリトセハ則チ此國權ノ主格ハ反リテ共同團體其者ナリト推測スルヲ正理ト信スルナリ

又共同團體タル國家ノ人格ヲ認メヌ君主タル一個人ヲ以テ統治權ノ主體ト爲ストキハ國家意思ノ永續シテ効力アル所以ノ理則チ君主交代ノ際等ニ於テ前



君主ノ行フタル國權ノ作用ノ後以君主ノ世ニ於テ當然効力アル所以ヲ種々説明スル能ハサルハ前君主ノ發表シタル意思ハ後ノ君主ノ世ニ至リテ其後ノ君主ノ發表シタル意思ニアラサルヲ以テ既ニ之ヲ君主ノ意思ト云フ能ハサルハ前君主ノ發表シタル意思ハ前君主存在ノ間ニ限り効力アルノミニ止リテ前君主崩御セハ其發表シタル意思亦存在ヲ失フニ至ルヘケレハナリ此説明ニ付テハ支配者說ヲ採ルモトハ大ニ苦心セリ故ニザイデル氏ハ君主トハ統治ヲ爲ス一個人ヲ指シテ云フニアラス抽象的ノ統治人格ヲ指レテ云フナリ君主モ之ヲ一ノ制度トシテ觀ルトキハ永久不變ノモノナリ故ニ實際ノ支配者ハ時々交代スルモ其國權作用ノ効力ハ此交代ニヨリ影響ヲ受タルモノニアラスト云ヘリ然レトモ「ザイデル氏」ノ本來ノ說ヨリスレハ斯ル説明ハ少シク矛盾ニ陥ルニアラサルヤヲ疑ハサルヲ得ス蓋シ「ザイデル氏」ハ共同團體タル國家ヲ國權ノ主體ト爲スハ一ノ擬制ニシテ採ルニ足ラス何トナレハ國家ハ自然人ニアラサルヲ以テ意思ヲ有スルモノニアラザレハナリ凡ソ意思ヲ有スル者ハ實際上自然人ナリ故ニ統治ノ意思ヲ發スルモノハ自然人ニシテ此自然人カ則チ統治權ノ

主體ナリト云ヘリ若シ實際上統治ノ意思ヲ發スル自然人カ統治權ノ主體ナリトセハ此自然人タル統治權ノ主體ノ外ニ猶抽象的ノ統治權ノ主體ナルモノハ存シ得ヘカラサルノ理ナリ然ルニ君主トハ個々ノ人ヲ云フニアラス抽象的ノ人格ヲ指シタルナリト云フハ矛盾ニアラスシテ何シ「ザイデル氏」ノ所謂統治人格タル君主ナルモノモ亦擬制ナルノミ然ルニ共同團體タル國家ヲ統治權ノ主體ト爲スヲ擬制ナリトシテ排斥スルハ何故シ「ザイデル氏」ハ「共同團體タル國家」又「ザイデル氏」ハ「統治者ハ其責務ノ性質上自己ノ爲ニ統治スルモノニアラス國家ノ爲ニ統治スルモノナリ自己ノ一個人ノ利益ヲ達スル爲ニ統治スルモノニアラス國家ノ利益ヲ達スル爲ニ統治スルモノナリ」ト云ヘリ是レ「ザイデル氏」カ固ヨリ政治上ノ君主ノ性質ヲ述ヘタルモノニシテ法律上ノ性質ヲ述ヘタルモノニハアラサルヘキヲ以テ此言ヲ以テ直ニ攻撃ノ材料ト爲ヌヲ得サレトモ然レトモ若シ君主ニシテ自己ノ利益ヲ達スル爲ニ統治スルモノナラバ反リテ君主カ統治權ノ主體ナリト云フヲ得ヘキモ今然ラスシテ君主ハ自己ノ利益ヲ達スル爲ニ統治スルニアラスシテ國家ノ爲ニ統治スルコト果シテ政治上ノ真

理ナラハ何故ニ統治權ノ主體ハ國家ニアラサルヤヲ疑ハサルヲ得サルナリ又法律ノ如キモ人民共同團體ノ生存ノ必要條件トシテ存スルコトハ何人モ異論ナキ所ナリ即チ法ハ團體ノ爲ニ存ス然ラハ法ヲ發スル主體ハ團體其物ナラスンハアラサルヘレ

吾人ノ採用スル目的觀察法ニ從フモ元ヨリ統治ノ意思ヲ發表スル個々ノ君主ハ之ヲ單位ノモノト見ルコトヲ得然レトモ之カ爲ニ團體ハ人格タル性質ヲ有セストハ決シテ云フヲ得サルナリ「グ、マイエル」氏ハ國權ヲ執行スル個々ノ自然人ハ常ニ變換スレトモ國權ノ永續ハ決シテ之カ爲ニ妨ケラレハモノニアラス又國家ノ組織ヲ全ク變更シテ共和國ヲ君主國ト爲スモ君主國ヲ共和國ト爲スモ國權ハ常ニ依然トシテ存在スルナリト云ヘリ是レ正當ノ說ナリ故ニ例ヘハ「ザイデル」氏ノ本國ナル「バイエルン」國ニ於テ適法ノ形式ヲ履ミ憲法ヲ改正シ君主ノ位置ヲ變更スルモ之カ爲ニ「バイエルン」ノ國家カ消滅セタリト云フヲ得ス支那ノ如キ佛蘭西ノ如キ朝廷又ハ國體ニ屢々變動アルモ法律上ハ國家ノ消滅ト爲スコトナク常ニ同一ノ國家トシテ取扱ハルヘナリ故ニ人民共同團體タル國家

カ單位ノ人格トシテ存在スルコトハ畧之ヲ理會シ得ヘシ人ノ國體ニ關係スル又「ボルン」氏ハ「國家ト君主トハ全ク同一ノ觀念ニシテ君主ハ則チ國家ナリ故ニ君主崩御スレハ國家モ亦消滅スト云ハサルヘカラサルニ似タリト雖モ法律ヲ以テ定メタル君位繼承ニヨリ君主ノ崩御アレハ新君主ハ直ニ其位置ヲ充タスヲ以テ自然人タル君主ハ崩御スルモ國家タル君主ハ人間ノ如ク死亡スルコトナレ新君主ハ決シテ新ナル人格ヲ得ルモノニアラスシテ前人格ヲ續ケルモノナリ故ニ前君主モ新君主モ同一ノ國家ニシテ前君主ノ發表シタル意思ハ又直ニ新君主ノ自己ノ意思タルナリ隨テ一タヒ君主ノ發表シタル意思ハ永續スルモノナリト云ヘリ

此說ニ對シテハ二個ノ批難ヲ挾ムコトヲ得ヘシ此說ニ君位繼承ニ因リ新君主ハ前君主ノ人格ヲ受繼クモノナリト云フモ是レ適當ノ說ナルヤヲ疑ハサルヲ得ス今日國法學上ノ說明ニ於テハ君位繼承權ハ親族法上ノ相續權トハ全ク異ナルモノニシテ現今ノ君位繼承ニ於テハ從來ノ君主ノ崩御ニ因リ其崩御シタル君主ノ權利カ新君主ニ移轉スルモノニアラス則チ前君主ノ權利ヲ相續スル

モノニアラスシテ唯法律ヲ以テ豫メ定メラレタル一定ノ人カ法律ニ依リテ直接ニ君主ノ位ニ即キ得ルニ憑キサルモノナルコトハ殆ント異論ナキ所ナリ若シ君位繼承權ニシテ親族法上ノ相續權ト同一ノ性質ヲ有セハ新君主ハ前君主ノ人格ヲ受繼スルモノナリト云フコトヲ得ヘキモ苟モ君位繼承ハ其性質上唯一定ノ人カ直接ニ法律ニ基キ君位ヲ踏ムモノナル以上ハ之ヲ以テ直ニ前後君主ノ人格ノ繼續セルモノト見ルヲ得サルナリ若シ又「ボルンヘック」氏ノ意ハ「前後君主ノ同一人格タル所以ハ君位繼承法ナル法律ニ依リ新君主ハ前君主ノ人格ヲ受繼スルモノト見ルニ由ル」ト云フニアラハ更ニ循環論法ノ誤謬ニ陥ベリタルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ前君主ノ發シタル君位繼承法ナルモノハ其前御後ニ於テモ猶効力アル所以ノ理ヲ明ニスルヲ得ヌンハ前後君主メ同一人格ナルコトヲ主張シ得ザルナリ然ルニ今前後君主ハ君位繼承法ニ依リ同一人格ト見ルヲ得ルヲ以テ其前君主ノ發シタル意思則チ君位繼承法ハ繼續スト云フニアルヲ以テナリ抑モ君位繼承法ハ前後君主ノ同一人格ナルコトヲ規定スルモノニアラスシテ唯君位ヲ繼承スヘキ人ノ範圍及順序ヲ定

# 行政法

法學士 竹井耕一郎 講述  
校 友 竹内喜一郎 編輯

## 第一編 總論

### 第一章 行政

行政トハ文字上ヨリ之ヲ解セハ政ヲ行フトノ義ニシテ國家ノ政務ヲ行フトノコトニ歸ス然レトモ是ノミニテハ意義甚々漠然トシテ如何ナル種類ノ政務ナルカ又其全般ナルカヲ知ル能ハス抑モ今日ノ如ク國家ノ機能ヲ立法司法行政ノ三種ニ區別シ國家機關ノ權限ノ區別ヲ明ニセルハ近世ノ事ニシテ古ニ於テハ此三種ハ互ニ混合シ今日ノ如ク確然タル區別ナカリシカ故ニ單ニ行政ト云フトキハ凡テノ政務ヲ總稱スルモノト考ヘタル時代アリキ此時代ニ於テハ學

者ノ議論モ只主ニ行政學ノ議論ニシテ行政法ヲ論スル者ハ實ニ少ナカリシ而シテ行政學トハ政治ノ利害得失ヲ論究スルモノニシテ行政法ノ如ク法令ニ基キ法理ノ存スル所ヲ攻究スルモノニアラス古昔希臘ノ時代ニ於テハ彼ノ「アリストートル」ノ如キ又羅馬ニ於テモ「シセロ」「デモスゼキス」ノ如キ政治論トシテハ善美ナルモノアリシ例ヘハ「アリストートル」ノ政體ヲ貴族共和君主ノ三種ニ分チシモノ、如シ此論ハ已ニ久シク世間ヲ風靡シ來リテ現ニ今日モ政體論トシテハ尙有力ナリ又「アリストートル」ハ猶一步進ンテ殆ント今日ニ近キ議論ヲ爲セリ即チ國家ノ機能ヲ分チテ行政權司法權議決權トセリ此區別ハ今日所謂三權ノ區別ト類似ス然レトモ其名ノミハ相似タレトモ其實質ハ必ラスシモ同一ナラス且其機關モ確然タル區別ナキカ故ニ當時ハ頗ル漠然タリシ

其後「グロチエー」スハ國家ノ機能ヲ一般及特別ノ機能ニ區分シ一般ノ機能ヲ立法トシ特別ノ機能ヲ更ニ私ノ事件及公共ノ事件ニ分チタリ然レトモ此區別モ今日ノ三權ノ區別ト一致スルモノニアラス降リテ「ロウク」田テ、始メテ機能ヲ三分シ立法執行外交ノ三ト爲セリ而シテ此三權ニ高下ヲ付シ立法ヲ以テ最高

トシ之ヲ人民ノ權ト爲シ執行權ハ法律ヲ實際ニ行フモノニシテ君主ニ屬シ外交モ亦君主カ國家ヲ代表シテ行フ所ノモノトセリ

以上學者ノ區別ハ今日ノ所謂立法司法行政ノ區別ト時ニ相似タルモノアリト雖モ明瞭ナル法理上ノ基礎アルモノニアラス其他「マキャベリ」「ルソー」ノ如キ有名ナル著書アレトモ皆政治論ニシテ行政法ノ議論ニアラス

斯ノ如ク古ニ在リテハ行政ヲ以テ政務全般ヲ稱スルモノトシ或ハ然ラストスルモ行政ヲ論スルモノハ多ク行政學論ニ止マレリ是獨リ外國ノミニアラス支那及日本ニ於テモ皆學者ノ議論ハ行政學ノ論ノミナリシ然ルニ「モンテスキュー」「ハロウク」ノ後ニ出テ「ロウク」ノ區別ノ名稱ヲ取り而シテ其精神ヲ變更セリ

「ロウク」ハ三權中立法權ヲ最高トシ之ヲ人民ニ與ヘシ「モンテスキュー」ハ三權ヲ皆平等ナリトセリ互ニ平等ナルカ故ニ各其權限ヲ守リ相箝制シテ其中ノ一ハ他ヲ壓スルコト能ハサルカ如ク立論セリ而シテ執行權外交ハ君主ニ立法權ハ貴族ト人民トニ與ヘ司法權ハ之ヲ裁判所ニ與ヘタリ此說一度出テ、ヨリ久シク學說ノ大勢ヲ風靡シ來リシカ其後ニ至リ漸ク之ヲ批難スルモノ續出シ來レ

其第一ノ論者曰ク「モンテスキュー」ノ三權ノ區別ハ甚タ不完全ナリ何トナレハ今日ノ行政ハ單ニ外交ノミニアラス故ニ其他ノ行政ノ大部分ハ此區別ノ何レニ合マシムルモノナルカ其位地ナキニ苦シムト此議論ハ強チ誤リタルモノニアラスト雖モ未タ以テ三權併立ノ主義ヲ破ルニ足ラス是レ單ニ行政ノ部分ニ關スル批難ニ止マレリ

第二ノ論者ハ曰ク「モンテスキュー」ノ此區別ヲ爲シタル所以ハ英國ノ政體ヲ研究セシ結果ナリ然レトモ實際英國ニテハ司法、行政ノ區別ハ左程確然タルモノニアラス行政官ニシテ時ニ司法官ト爲ルコトアリ又英國ハ不文法國ニシテ法律ノ大部分ハ判決例ヨリ成ル然ラハ司法ト立法トノ區別モ亦分明ナラス英國ノ政體ニシテ已ニ此ノ如シトセハ「モンテスキュー」ノ議論ハ根據ナキモノニレテ空想ニアラサルカト此論者カ英國ノ實際ヲ説クハ必ラスシモ誤謬ナルニアラス然レトモ是亦三權併立ノ主義ヲ破ルノ價值ナシ假令英國ニ實際ノ例ナキモ其議論ノ主義ニシテ善美ナレハ即チ可ナルヲ以テナリ

第三ノ論者曰ク司法ト行政トハ均シク執行權ニシテ區別ナキモノナリト然レトモ「モンテスキュー」ノ趣旨ハ司法、行政立法ノ三權ハ互ニ相對立レテ各其分ヲ守リ相侵害セスト云フニアリ故ニ司法、行政ハ均シク執行トスルモ司法權、行政權ノ權限ニシテ其範圍明確侵スヘカヲサルモノタラハ矢張「モンテスキュー」ノ精神ハ依然タルモノナリ

以上述ヘタル處ニ依リテ見レハ此等ノ批難ハ少シモ其精神ニ影響ヲ及ボスモノニアラス然ラハ「モンテスキュー」ノ説ハ絕對ニ可ナルヤト云フニ是又少シク論セサル可ラサルモノアリ其三權對立シテ各其分ヲ守リ相侵サ、ルノ精神ハ頗ル可ナリト雖モ之ヲ推シテ以テ國家ノ權力其物カ三分セル如ク考フルハ大ナル誤解ナリト云ハサルヲ得ス現ニ佛國ノ如キハ三權相爭ヒ政務全ク擧ラサルコトアリシ蓋國權ハ元ヨリ唯一ニシテ不可分ナルコトハ明白ナル所ナリ只此國權ノ作用ニヨリテ區別シ得ルノミ抑モ行政トハ之ヲ約言セハ社會ノ萬般ノ事情ニ應ジテ國家公其ノ安寧ヲ保持シ又進テ幸福ヲ圖ルノ目的ヲ以テ法律及大權ノ範圍内ニ於テ活動スルコト其本分ナリ司法ハ全ク之ト其性質ヲ異ニ



ニ確定セル法令ノ特別ノ事件ニ其儘解釋適用スルコト其本分ニシテ便宜斟酌  
 ハ之ヲ許サヌ又立法ハ行政ノ外ニ立テテ公平ニ國家ノ遠大ノ利害ヲ觀察シテ  
 確固タル法則ヲ制定スルヲ以テ本分トシ臨機應變ハ其本分ニアラス故ニ此三  
 權各其分ヲ守リ相越エスニテ始メテ完全ナル國權ノ作用ヲ爲スモノナルヲ以  
 テ子ハ「モンスキュー」ノ精神ハ甚タ可ナリト云ヘル所以ナリ故ニ「ロック」ノ謂ヒ  
 シ如ク立法權ヲ最高トシ其他ノ權ハ此指揮ニ從フ如ク考ヘタルハ大ナル誤解  
 ナリ又之ト反對ニ世間ニ所謂政黨内閣ノ弊害トシテ時トシテハ立法權カ行政  
 權ノ下ニ立テ其本來ノ自由活動ヲ失スルカ如キコトアラハ其弊亦實ニ計ル可  
 ラサルモノアラン

前述ノ如ク統治權ハ唯一不可分ニシテ其作用ノ形式ニ依リテノミ是ヲ分ツコ  
 トヲ得ルモノナリ而シテ此區別ニ付キ近時二三ノ學者ノ說ヲ舉クレハ左ノ如  
 シ

獨逸ノ「ゲオルグマイエル」ハ行政ヲ定義シテ曰ク行政トハ政治上ノ機關ノ行爲  
 ニシテ立法司法ニアラサルモノヲ總稱スト此定義ハ消極的ノ定義ナルカ故ニ

定義トシテハ可ナルモノニアラス此定義ニ依テ行政ノ何タルヤヲ知ラント  
 欲セハ先ツ立法司法ノ何タルヤヲ知ラサルヘカラス故ニ「マイエル」ハ更ニ進  
 テ論シテ曰ク司法ト法政トハ異ナレリ司法事件ハ一般ノ法ノ事件トハ意味ヲ  
 異ニス司法ハ法政中ノ二ツノ部分ヲ有スルモノニシテ即チ民法上及刑法上ノ  
 モノ是ナリ法政トハ民法上及刑法上ノ外ニ國際法國法行政法モ皆含ムモノナ  
 リト猶進テ論シテ曰ク司法ト行政トノ差別ニ關シテハ既ニ歴史上機關ヲ區  
 別シ來リレト雖モ是レ固ヨリ形ノ上ノ區別ニ過キヌ又實質上ヨリ見レハ司法  
 ハ只法ノミニ依頼シテ活動シ行政ハ法ニ依頼スルコトアレトモ之ト同時ニ國  
 家ノ目的ニ適スルコトヲ務ムルノ別アリ司法機關ノ活動中民事刑事ノ外ニ一  
 個人ノ權利ノ確定ニ參スル行爲アリ此行爲ハ寧ロ行政ノ性質ナリト尙立法ヲ  
 論シテ曰ク立法トハ社會ノ機關ニ依ル一般ノ法則ノ發布ナレトモ狹義ヨリシ  
 テ學者ハ只國家カ法ヲ制定スル作用ノミヲ指シテ立法ト云ヘリ而シテ近來所  
 謂自主權ニ依ル規定ハ之ヲ除ケリ蓋シ古ニ在リテハ自主權ハ法律ノ制定ニ關  
 シテ著大ナル勢力アリシカ漸々國家ノ權力増加シテ自主權ニ依ル規定ハ只タ

自己ノ機關及其組織ヲ規定スルノミニ至レリト云ヘリ約言セハ立法トハ機關ニ依ル一般法則ノ發布ニシテ司法トハ行政トハ其區別ヲ性質上ヨリ求めルハ司法ハ其性質只法ノ解釋適用ニ止マルノミ然ルニ行政ハ其性質上國家ノ目的ニ適センコトヲ務ムル所ノ働ナレトモ只時トシテ同時ニ法ノ解釋適用ヲ爲スモノナリト此區別ハ誠ニ明瞭ナラサルヲ以テ「マイエル氏ハ前述ノ如キ消極的ノ定義ヲ取リシモノナリ

或學者ハ形式的ニ國家ノ機能ヲ區別セリ即チ立法、行政ノ二ニ分テ司法ハ之ヲ行政中ニ含マシメ而シテ行政トハ機關ヲ通シテ國權カ人民ニ對シテ發動スル形式ヲ取ルモノナリト是ニヨレハ司法トハ行政ノ區別ハ更ニ實質的ニ之ヲ求メサルヲ得ス元來立法、司法、行政ノ三權ノ區別適當ナリト云フ所以ハ其精神ノ可ナルヲ云ヒ其形式ニ因ルモノニアラス故ニ行政司法ノ區別ハ之ヲ實質ニ求ムルモ敢テ不可ナキナリ或學者ハ議論ヲ進メテ區別ノ標準ヲ目的ニ探レリ即チ行政ノ目的ハ常ニ國家公共ノ利益ヲ目的トシ時トシテ法ヲ解釋適用スル場合アリト雖モ是レ手段ニシテ目的ニアラス然ルニ司法ハ之ニ反シテ法ノ解釋

適用其レ自身カ目的ナリト云ヘリ即チ此說ニ據レハ手段ト目的トヲ區別シテ頗ル明瞭ナリ或ハ之ヲ批難シテ例ヘハ上級長官カ下級官廳ノ處分ヲ違法ナリトノ理由ヲ以テ取消ヲ命スルコトアリ此場合ハ其取消命令ノ目的ハ違法ニアルカ故ニ即チ法ノ解釋適用ナリト然レトモ此行爲ノ性質ヲ考フルトキハ其目的ハ決シテ只法ヲ解釋適用スルニアラス違法ノ所爲ハ國ノ安寧幸福ニ害アルカ故ニ之ヲ取消サシムルモノニシテ即チ國家公共ノ爲ニスル所以ナリ此ノ如ク解シ來レハ目的の說ハ決シテ不可ナリト云フヲ得ス

或學者ハ法政ト行政トヲ分チ行政ヲ更ニ細分シテ國政ト民政トニ分チ國政トハ國家カ自存ノ目的ヲ以テ行フトゴロ行政ヲ云ヒ國民ノ精神上形體上ノ利益ヲ保護シ増進スルノ目的ニ出ツル所ノ政務ヲ民政ト云フ此區別ハ或點ヨリ論スレハ有益ナル區別ナレトモ茲ニハ只參考トシテ述ヘ置クノミ蓋三權分立ノ區別トハ其基礎ヲ異ニスルヲ以テナリトモ八國憲法ノ論議ニ於テハ

最後ニ「ラバジド」行政ニ關スル說ヲ述ベシハ論シテ曰ク行政トハ之ニ對スル所ノ語ニ依テ其意義極々異レリ或ハ之ヲ憲法ト相對セシメテ論スルモノ

アリ又法政ト相對セシメテ論スルモノアリ或ハ又私法ニ對シテ行政ト云フモノアリ唯概シテ行政トハ法ノ執行ニシテ立法ニ對スルモノナリトノ說ニ歸着セリ然レトモ行政ノ内容ハ只法ノ執行ニ止マラス人民國土ノ保護國民福利ノ政策等ヲ包含ス是等ハ只法ニ依リテノミ爲スコトヲ得ヘキモノニアラス故ニ行政ト云ヘハ積極的ニ法ニ因リテ定メラレ又之ニ導カレ消極的ニ立法ニ因リテ限界セラルハトノ意味ニアラス必竟行政ノ實體ハ法ノ監督ノ下換言スレハ法ヲ破ラサル範圍ニ於テ國家ノ事務ヲ行フ處ノ行爲ナリト

以上ハ學者ノ說ノ當否ヲ批評セシモノナレトモ要スルニ立法司法行政ノ區別ハ今日一般ニ用ヰラル、處ニシテ我憲法モ亦此精神ヲ認メタリ蓋本來ノ意義ヨリ云ヘハ立法トハ法規ヲ定ムルノ行爲ニシテ行政トハ法ノ範圍内ニ於ケル活動ナリ而シテ司法ハ法ノ解釋適用ナリトハラバンド氏ノ說ナリ是レ本來ノ意義ナレトモ現行法ノ區別ハ必スシモ之ト相一致スルモノニアラス我憲法第五條ニ「天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ」ト又同第三十七條ニ「凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス」ト其他法律ナル文字ハ各所ニ散在セリ而

シテ憲法上ノ所謂法律トハ如何ナルモノナリヤト云フコトハ今日尙疑問ニ屬ス普通ノ定義ニ依レハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル國家ノ命令ナリト云フ然レトモ是レ未タ適切ナリト云フ可ラス予ハ法律トハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ法律トシテ裁可セラレタルモノヲ云フ固ヨリ法律ノ定義トシテ完全ナルモノニ非ス只實際ニ照シテ誤ナキモノタリ而シテ立法トハ此法律ヲ制定スル國家ノ行爲ナリ行政トハ國家公共ノ安寧福利ヲ目的トスル官府ノ行爲ナリ而シテ法ノ適用ヲ目的トスル官府ノ行爲ハ司法ナリ或學者ハ廣義ニ行政ヲ解シテ形式ノ區別ヲ採リ官府ヲ通シテ人民ニ對スル處ノ統治權ノ作用ヲ行政ト云フト而シテ其中ニ於テ行政ト司法トヲ區別セントセリ然レトモ此區別ハ少シク推ナルモノ、如シ如何トナレハ立法ト行政トヲ分チ更ニ行政ノ中ニ付キ司法ト行政トヲ別ツヲ以テナリ若シ此ノ如クセハ事口行政ト司法トハ學理上區別ナシトスルコト論理ヲ一貫セリト云ハサルヘカラス元來分類ハ實質的ニ之ヲ爲スヨリモ形式的ニ爲スヲ以テ明瞭ナリトス實質的ニ分類スルトキハ相類似シタル場合ニアリテ實際上或テ生シ易シ然ルニ形式上ヨリ區別セハ一見甚々明



白タルヲ得ヘシ而シテ予ハ我國法ニ於テ統治權ノ作用ヲ純然タル形式的ノ區別ヨリセハ大權ト行政トノニ三分ツヘキモノナリト信スルニシテハ斷然大權トハ天皇ノ親裁スルモノニシテ機關ニ委任セラレザル憲法上定マリタル範圍ヲ云ヒ行政トハ機關ヲ通シテ人民ニ對スル統治權ノ作用ナリ此區別ヨリセハ立法ハ大權ノ中ニ包含セラレ而シテ司法ト行政トノ二ハ廣義ノ行政中ニ入ルナリ或ハ曰ク立法ハ大權ニアラス何トナレハ立法ハ帝國議會ノ協賛ヲ經サル可ラス即チ之レ御親裁アラセラルベシ範圍ニアラスト然ラハ問フ法律ハ如何ニシテ法律トナルモノナルヤ抑モ法律ハ裁可アリテ始メテ成立シ國會ノ協賛ハ法律ヲシテ法律タラシムルモノニアラス立法權ノ大權タルコトハ憲法第五條ニ於テ明ナリ即チ「天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ」トアリ故ニ外部ヨリ見タル形式ヲ以テ論スレハ大權ト行政トノニ區別スルヲ純粹ナル區別法ナリト信ス然レトモ此區別ヲ以テ三權ヲ混同セルモノトスルハ誤レリ形式ト實質トノ區別ハ明ニ爲サ、ル可カラサルノ點ナリ形式上ノ區別ハ必スシモ實質上ノ區別ト相伴フモノニアラス故ニ三權各其分ヲ守ルト云フ精神

ハ形式的ノ區別ヲ取ルモ又依然タル所ナリ蓋シテ此區別ハ暫時ニハハ以上形式的ノ區別ハ普通ニ行ハル、モノニアラス故ニ予ハ暫ク便宜上普通ノ區別ニ從ヒテ區別スヘシ即チ立法トハ法律ヲ制定スル國家ノ行爲ニシテ行政トハ法律、大權ノ範圍内ニ於テ國家及公共ノ安寧福利ヲ目的トスル官府ノ行爲ニシテ司法トハ法律ヲ實在ノ事件ニ對シテ解釋、適用スルコトヲ目的トスル官府ノ行爲ナリトセン然レトモ此區別ハ未タ以テ完全ナルモノナリト云フコトヲ得ス何トナレハ國家ノ機能ニシテ此三者中ニ包含シ得サルモノアレハナリ即チ立法以外ノ大權ノ部分是ナリ然レトモ此區別ニ依リテ立法司法行政相對シテ各其分ヲ盡シ相侵サ、ルノ精神ヲ示スニ足リ且之ニ依テ行政ノ範圍モ亦明ニ知ルヲ得ヘシ

行政ニ關スル憲法上ノ規定ハ同法第九條第二章全體第五章ノ一部第六章ノ一部分等其重ナルモノナリ

**第二章 行政行爲**

或學者ハ行政行爲ヲ分クテ實質上ノ行政行爲及形式上ノ行政行爲トシ更ラニ

實質上ノ行政行爲ヲ細分シテ第一權力行爲及權利行爲第二公法人行爲及私法  
人行爲トセリ

近來權力說全然勢力ヲ得テ統治權ハ權利ニアラスシテ權力ナリト云ヘリ獨逸  
ノ學者ニ在リテニボルンハック氏ハ其卒先者ニシテ日本ニ於テハ穂積氏之ヲ唱  
道セリ而シテ此說ニ依レハ統治權ハ絕對無限ノ權力ニシテ權利トハ全ク其性  
質ヲ異ニス權利ノ觀念ヲ以テ統治權ニ比較シ又之ヲ情度スルコト能ハスト云  
ヘリ此種ノ論者ハ權利ヲ以テ法律アリテ後始メテ存在シ得ルモノトシ統治權  
ハ法ヲ作ルモノニシテ法ニ因リテ作ラル、權ニアラス故ニ權利ニアラス即チ  
統治權ハ法ノ上ニ事實上ノ力ナリトセリ予ハ以爲タ元來國家ハ權力者ニ依リ  
テ組織セラル、モノニシテ一旦國家成立セハ茲ニ國憲生ス此國憲ハ普通不文  
ナリ此國憲ハ權力者カ國家ヲ作ルト同時ニ之ヲ制定セシモノナリ國憲ハ即チ  
法ノ一種ナリ已ニ國憲存在シ得ルトセハ即チ憲法上ノ權利生シタリト云フコ  
トヲ得國家成立シテ治者被治者ノ關係定マラハ不完全ナカラ國憲生シ生ス國  
家成立前ノ實力ハ國家ノ成立即チ國憲ノ成立ト共ニ法律上ノ權利トナル今日

普通ノ說ノ如ク成文憲法アリテ始メテ法律上ノ國家アリト云フコトヲ得ス蓋  
シ權利ト權力トハ全ク別性質ノモノナリトノ議論ハ一理アルカ如クナレトモ  
已ニ私法上ニ於テ物權ト債權トハ同一財產ニ對シテモ其効力大ニ異ルモノ  
ナルカ故ニ權利ノ範圍ヲ無限ニ引キ延セハ絕對無限ノ權ナリト云フモ妨ケナ  
キナリ事實上ノ權力モ法律上ヨリ觀察スルトキハ權利ト云フモ何等ノ不可ナ  
シ故ニ前述ノ論者カ權利行爲ト權力行爲トヲ分チ其結果トシテ前者ハ既得權  
ヲ與ヘスシテ而シテ後者ハ之ヲ與フルモノナリ又前者ハ取消シ得ヘキモノニ  
シテ後者ハ取消シ得ヘカラサルモノナリ一ハ行政訴訟ノ原因ト爲ルモノニレ  
テ一ハ通常訴訟ノ原因ト爲ルモノナリト論セルモ是等ノ議論ハ國家カ定メタ  
ル意思ノ限定即チ法規ニ基キ推理スレハ自ラ生スル結果ニシテ必スモ權力  
行爲ナルカ故ニ斯ノ如シ權利行爲ナルカ故ニ斯ノ如シト断定スルノ必要毫モ  
アルコトナシ是レ皆法規ノ性質ヲ研究シ權利ノ範圍ヲ定ムルトキハ自ラ流出  
スル所ノ結果ナリ

次ニ此種ノ論者ハ公法人行爲私法人行爲ヲ辨テリ此區別ハ右ノ權力行爲及權

利行爲ニ相伴ヒテ區別シタルモノナリト云フ既ニ權力行爲權利行爲ノ區別ヲ爲  
 スノ必要ナシトセハ第二ノ區別ノ必要モ亦生スヘカラス假リニ權力權利ノ區  
 別ヲ爲シテ論スルモ此等ノ論者ハ行政法ノ範圍内ニ於テ國家ヲ以テ私法人ナ  
 リト認ムルモノニシテ斯ノ如ク論セハ公法私法ノ區別立タサルニ至ルヘシ是  
 必竟公法私法ノ區別ヲ明ニセザルヲ誤リニシテ公法ノ範圍内ニテ私法人ヲ論  
 スルハ甚タシキ混同論ナリト云ハサルヘカラス

次ニ形式上ノ行政行爲ノ外部ニ對シテ發スルモノハ概テ命令處分及合意ニヨ  
 ル行爲ノ三種ニ區別スルコトヲ得而シテ内部即チ行政官府ニ訓示スルニ止ル  
 モシハ監督ト訓令廣義トノ二者ニ區別スルコトヲ得ヘシ

第二命令 命令トハ行政官府カ人民ニ對シテ發スルモノニシテ此中ニハ行政  
 命令執行命令委任命令ヲ包含ス此命令中ニハ規則ノ本體ト其制裁法トヲ兼ス  
 ルコトヲ得ルモノアリ又否ラサルモノアリ而シテ制裁ニ關シテハ明治二十三  
 年法律第八十四號アリ即チ命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ニテ罰金二百圓以下  
 禁錮一年以内ノ罰則ヲ一般ニ委任セラレルモノナリ又同年勅令第二百八號ヲ

以テ省令廳令府縣令警察令ニ制裁ヲ附スルヲ得ルコトヲ規定セリ即チ省令ハ  
 二十五圓以内ノ罰金若クハ二十五日以下ノ禁錮廳令府縣令警察令ニハ十圓以  
 内ノ罰金若シクハ拘留ノ罰ヲ附スルコトヲ得トアリ特別ノ場合ニハ罰則ノミ  
 ヲ設クルヲ得ルコトアリ又本體ノ規則ノミヲ設クルヲ得ルコトアリ要スルニ  
 命令ハ大權及法律ノ委任ニ依リテ發スルモノナリ今日我國ニテ行政上ノ命令  
 ト稱スルモノハ左ノ種類ナリ

- (一) 閣令及省令 各大臣ハ其職權ニ依リ若シクハ特別ノ委任ニヨリテ法律勅  
 令ノ範圍内ニ於テ閣令及省令ヲ發ス閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各  
 省大臣之ヲ發ス
- (二) 府縣令 府縣令ハ府縣知事職權若クハ特別ノ委任ニ依リテ法律勅令ノ範  
 圍内ニ於テ之ヲ發ス此ノ中ニテ特別ナルモノハ北海道廳令及警視廳令是ナ  
 リ
- (三) 郡令及島廳令 法律命令ニ因リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付  
 キ郡長及島司ノ發スルモノナリ尙區令ハ區長ノ發スル所ニシテ郡令ニ準ス

(四) 條例規則及規約 條例及規則ハ市町村及其他ノ團體若クハ一個人カ法律命令ニ依リ設タルコトヲ得ル命令ナリ規約ハ公ノ組合體之ヲ設ク或學者ハ之ヲ自主權ニ因ル規定ト云ヘリ

抑自主權ナル觀念即チ「オートノミ」ナル文字ハ國家ヨリ獨立スルトノ意味ナリシ例ヘハ獨乙ニテ皇室典範ヲ自主權ニヨル規定ナリト論セリ是レ實際沿革上ヨリ來ルモノニシテ往昔獨乙ノ王族カ國家ノ權力ニ依ラスレテ其家法ヲ定ムルノ權アリシ故ニ皇室典範ヲ以テ自主權ニ依ル規定ナリトセリ又獨逸ニテ封建ノ後自由市府ノ起ルニ至リ或モノハ恰モ國家ヨリ獨立セルモノアリキ寺院ノ如キ著キ例ナリ此等ノ觀念ヨリシテ自主權ニ因ル規定ト云ヒタルナリ今日ニ至リテハ此觀念一變シテ國家統一ノ說起リ從來ノ觀念ノ根本ヲ棄テ、其名ノミヲ存シ自主權ニ因ル規定ノ文字ヲ廣義ニ適用シ國家ヨリ獨立スルモノニアラスシテ只團體カ其内部ノ規定ヲ爲ストキハ凡テ自主權ニ因ル規定ト云ヘリ例ヘハ國會カ内部ノ規定ヲ爲スモ會社カ定款ヲ作ルモ自主權ニ因ル規定ト云ヘリ「マイエ」氏モ多少此領アリシ然レトモ

此觀念ハ正レキモノニアラス何トナレハ國會ニハ人格ナキカ故ニ自主ナル觀念ト相容レヌ又定款ハ一種ノ契約ニシテ自主權ノ觀念ト相違キカル今日ノ學者ハ自主權ハ命令權ニシテ市町村ノ如キ團體若ハ一箇人カ國家ノ委任ニ依リテ命令權ヲ行フ場合ニ限リテ自主權ナル言ヲ用非タリ

以上述ヘタル所ハ自主權ノ觀念ノ沿革ナリ此自主ナル文字ニ依リテ或ハ古ノ國家ヨリ獨立スルモノナリトノ疑ヲ起ス處アリ

第一行政命令

行政命令トハ大權命令ニアラス又執行命令委任命令ニモアラザルモノヲ云フ此命令ノ限界ハ第一法律ニ依ル即チ法律ノ爲ニ制限ヲ受ク第二ハ憲法上法律ヲ以テ定ムルヲ要スル事項ハ此命令ヲ以テ定ムルコトヲ得サルナリ一  
次ニ上級官廳ノ命令ニ違反スル所ノ命令ヲ發スルコトヲ得サルハ亦明白ナリ憲法上法律ヲ以テ定ムルヲ必要トスル事項ハ即チ

- 一 身體ノ自由
- 二 住所ノ自由

行政法

三 所有權ノ自由  
 四 言論著作、印行、集會及ヒ結社ノ自由  
 五 居住移轉ノ自由  
 六 信書ノ秘密

是等ハ命令ヲ以テ定ムルヲ得サルナリ是レ行政權ノ濫用ノ最モ甚キモノ  
 ヲ防クノ主旨ニシテ行政權ノ活動ヲ妨クルモノニアラス是等ノ範圍内ニア  
 リテ行政權ハ十分活動ノ餘地ヲ有セリ然ルニ戰時若クハ事變ノ場合ニ行政  
 命令權ノ範圍ハ一層擴張セラル、コトアリ即チ憲法第三十一條ノ規定是ナ  
 リ現行法ニ依レハ是等ノ場合ニハ天皇ハ戒嚴令ヲ發セラル、カ或ハ其他ノ  
 命令ニ依リ前述ノ自由ヲ束縛ス即チ法律ニ依ラズテ束縛シ得ルナリ同條  
 ニ所謂大權トハ憲法第一章ノ第八條及第十四條ヲ以テ主タルモノトス

第二執行命令

憲法第九條ニ天皇ハ法律ヲ執行スルカ爲メニ云々ト規定シアリ故ニ法律ヲ  
 執行スルカ爲メニ命令ヲ發スルハ憲法ノ認ムル處ナリ然レトモ假令憲法ニ

### 國際公法

法學士 秋山雅之介 講述  
 校 友 小田幹治郎 編輯

凡ソ一國ノ法律ハ其國主權ノ下ニ在ル領域内ニノミ行ハレ領域以外ニ對シテ  
 何等ノ効力ヲ有セサルヲ通則トス然ルニ宇内列國ノ對立シ交通頻繁ナルニ隨  
 ヒ第一ニ一國ト他國トノ間、第二ニ一國ト他國人民トノ間、第三ニ一國ノ人民ト  
 他國人民トノ間ニ於テ自ラ權利義務ノ關係ヲ惹起セサルヲ得ス隨テ此三種ノ  
 權利關係ヲ處理スルノ已ム可カラズ所ヨリ茲ニ國際法講究ノ必要ヲ生

緒 論  
 國際公法ノ範圍  
 國際公法ノ起源  
 國際公法ノ發展  
 國際公法ノ現狀  
 國際公法ノ將來



歐洲一般ノ學者ハ國際法ヲ分チテ國際公法及ヒ國際私法ノ二種トセリ然レトモ國際私法トハ人民ノ私人的權利關係カ數國ノ法律ニ關聯シ其法律ノ互ニ抵觸シ又ハ異動アル場合ニ於テ果シテ孰レノ法規ニ依リテ判別處辨ス可キヤヲ明ニスルモノニシテ此點ニ付キ方今文明諸國ニ於テ國法ノ互ニ一致スル所アルヨリシテ一種ノ慣法ト見ルヘキモノアレトモ其法則タルヤ決シテ國家ヲ拘束スルモノニ非ラス又國家ト國家トノ關係ニ何等ノ關係ヲモ有セザルヲ以テ嚴正ニ云ハ、決シテ之ニ國際法ノ名稱ヲ下スコト能ハサルモノニシテ大法學家中ニハ法律ノ抵觸ト名クルモノナキニアラス之ニ反シテ國際公法トハ國家ト國家トノ關係ヲ明ニシ他國ニ對シテ獨立國ノ有スル權利義務ノ關係ヲ明瞭ナラシムルモノニシテ方今文明國間ニ於テ其法則ヲ遵守スルコト恰モ一國ノ人民カ自國法律ヲ遵奉スルカ如ク亦其法則ニ違反セタル時ハ一國ハ他國ニ對シ相當ナル手段ヲ以テ之カ履行ヲ要請シ或ハ強行シ得ヘキモノト看做サレ居ルモノトス今茲ニ研究セムトスルハ即チ國際公法ナルコトナルカ本論ニ入ルニ先チ斯法ノ本質淵源並ニ其發達ノ如何ヲ畧述セン

### 第一章 國際公法ノ本質

#### 第一項 國際公法上ノ地位

國際公法ヲ法律ト看做スヘキモノナルヤ否ヤニ關シテハ古來法學者間ニ議論ノ絶ニサル所ナリ元來法律ナル觀念ニ付嚴格ノ解釋ヲ下ストキハ「オーステン」氏ノ說最モ其當ヲ得タルニ近シ氏ノ說ニ據レハ法律トハ政治上優者タル主權カ政治上劣者ニ下シタル命令ニシテ其遵奉ヲ強制スルモノナリトシ命令服從ノ義務及制裁力ヲ法律ノ三要素トセリ然ルニ此命令ナル語弊ニ就キテ近世ノ學者中古來諸國ニ於ケル法律發達ノ歴史又ハ慣習法等ノ事實ヲ引證シテ批難攻擊スル者アルヲ免カレサルコトナルカ要スルニ法律トハ其成文法ナルト不文法ナルトヲ問ハス人類ノ政治的團體中ニ行ハル、規則ニシテ其團體ニ於ケル政治上優者タル主權者カ之ニ法力即チ強制的ニ遵奉ノ義務ヲ附マタルモノナルコトハ殆ント議論ノ餘地ナキカ如シ隨テ其規則ヲ履行セザルニ就テハ必ス強制力ノ伴フコトヲ要スルモノニシテ彼ノ宗教道德ノ等々ヲ人類ノ共同生存ニ必要ナル行爲ノ規則タルニ拘ラス又法律ト區別シ得ヘキ主要ナル點ハ專ラ此

強制力ノ有無ニ存スルニ外ナラス然レニ今國際公法ニ付テ觀ルニ列國ハ各自  
主獨立ニシテ互ニ平等ナルカ故ニ其中ニ就キ政治上優者劣者ノ區別ノ存在ス  
ルノ理ナク又各國ハ他ニ政治上優等者アルコトヲ認メサルヲ以テ苟モ其行爲  
ニ關シテハ決シテ他國ノ拘束ヲ受クヘキモノニアラス隨テ列國間ニ行ハル、  
法則モ之ニ法力ヲ附シ其遵守ヲ強行スル者ナキニ因リ國際公法ハ自カラ法律  
ニ在ラストノ論結ヲ來サ、ルヲ得ス更ニ又論者アリテ文明諸國ハ互ニ獨立ニ  
シテ平等ナルモ其團體全體ニ主權ノ存在スルモノト想定シ其約定又ハ認定ニ  
係ル法則タル國際公法ハ其團體ヲ組織スル列國ノ遵守ス可キモノナリト論定  
スル者ナキニ非サレトモ如何セン列國間ニハ素ヨリ公認セラレタル司法機關  
ノ設備ナキニ由リ數國間ニ葛藤ヲ生スル場合ニ於テハ全然當事國ノ爭議ニ一  
任シ置クノ外他ニ之ヲ審理裁判スル者ナク天明ニ國際公法ニ違反スル行爲ヲ  
爲ス者アルニ當リテモ其遵守ヲ強行スル者ナキヲ以テ何レノ點ヨリ觀察スル  
モ國際公法ハ妙クトモ法律ノ要素タル強制力ヲ缺キ居ルヲ以テ純然タル法律  
ト看做スコト能ハス故ニ「オースマン」氏ハ國際公法ヲ以テ憲法行政法ト同シク

成例即チ公認セラレタル道德ト看做シ國際公法ト言ハスレテ寧ロ國際道德ト  
稱ス可キモノナリト論述セリ

然ラハ國際公法ハ道德ノ分類中ニ於テ論究ス可キモノナリヤト云フニ是レ亦然  
ラス何トナレハ「スナー」氏ノ云ヘル如ク假令列國間ニハ法律トシテ國際公  
法ノ存在スルコトヲ認メサル極端論者ト雖モ列國國際上ノ關係ヲ研究スル科  
學ノ存在シ得ヘク又現ニ存在スルコトニ付テハ異論ナカル可ク而シテ其科學  
タルヤ全ク法律上ノ論理ニ基キ居ルノミナラス方今文明諸國ノ間ニ現存スル國  
際公法ナルモノハ古來有力ナル慣習條約等ニ因リ國際行爲ノ規則ト認メラレ  
タルモノ、總合ニシテ列國ハ常ニ之ニ違背セサルコトヲ怠ラス又葛藤ヲ生レ  
タル場合ニ於テハ慣習、先例等ニ徴シ嚴正ニ法律的ニ處理スルコトヲ務ムルハ  
恰モ國法ニ於ケルト同シク純然タル法律思想ヲ以テシ更ニ其結果ニ伴フ可キ  
道德的ノ感情如何ハ固ヨリ國家ノ外交政略トシテハ一考ヲ要スヘキモ國際公  
法ニテハ措テ問ハサル所ナルヲ以テ恰モ憲法行政法ノ性質上強制力ヲ缺キ純  
然タル法律ト其性質ヲ異ニスルニ拘ラス尙之ヲ法律ノ分類中ニ入ル、ト均シ

ク國際公法モ亦必要上法律ノ一部トシテ論究スルノ外ナレトス

第二項 國際公法ノ定義

國際公法ノ定義ニ就キ古來法學者ノ所說ヲ大別シテ二種トナスヲ得ヘシ  
ノ鼻祖ヒウゴリドロシヤス〔千五百八十三年乃至千六百四十五年ハ國際公法ヲ  
以テ人類先天的固有ノ自然法ト爲シ、フツフエンドル〕ハ人類ニ宗教アルカ如  
ク國際公法ヲ以テ神授ノ自然法ト爲シ、ベンケルシヨーク〕ハ道理及ヒ慣習ヨリ  
成立セル國民ノ守ル可キ永久不變ノ法則ト爲シ、ウルフ及ヒ、パテル〕モ亦國際公  
法ノ基礎ハ自然法ニ在リトセルカ如キハ皆國際上一定不變ノ法則カ絕對的ニ  
社會ニ存在スルモノト看做シ之ヲ解釋的ニ應用シ又ハ歸納的ニ發見セントシ  
タルモノニシテ第十八世紀迄ノ學者ハ殆ト此主義ヲ採ラサル者ナレ然ルニ第  
十九世紀ニ至リテハ國際公法ニ關シテ斯ル神法自然法又ハ理想上ニ出テタル  
一定不變ノ法則カ社會ニ存在スルコトヲ認メヌ又假令存在スルモノトスルモ  
實際上斯ル空想上ノ法則ヲ目シテ直ニ列國間ニ行ハル、國際公法ト看做スコ  
ト能ハサルヲ以テ斯法ノ觀念モ漸ク一變シ來リ今日ニ於テハ國際公法ヲ以テ

國際社會ニ存在スル文明國間ノ德義并ニ其對外生活ノ發達ニ於ケル反響トナ  
スニ至リ從來ノ如ク理想上權利ノ原則ヲ論理的ニ國際上ノ關係ニ適用シ列國  
行爲ノ指導ナリトスルニアラヌシテ却テ事實上列國間ニ行ハル、規則ニシテ  
道理ニ矛盾セサルモノ、綜合ヲ指シテ國際公法ト爲シ其法則ノ變更及ヒ發達  
ハ一ニ列國團體ノ感想并ニ其表面ノ狀況ノ變化ニ伴フ可キモノト看做スニ至  
レリ

斯ク古來學者ニ於テ斯法ノ根據ニ關シ議論ヲ異ニセルヲ以テ其下シタレ定義  
ノ如キモ亦獨リ主觀的及客觀的ノ差アルノミナラス其根據ヨリシテ互ニ抵觸  
スルモノアルハ決シテ怪ムニ足ラサル所ニシテ近世ノ學者中ニ於テモ「マンニ  
ング」及ヒ「ハレツク」ハ國際公法ヲ以テ獨立國相互ノ關係上其行爲ヲ支配スル法  
則ナリトシ「ホイートン」ハ社會ノ狀態ニ隨ヒ正義ニ適合スルモノト道理上思考  
セラレ獨立國間ニ存在スル法則ニシテ一般ノ承認ニ基キタル規定并ニ變例ヲ  
モ包含スルモノト爲シ「ケント」ハ列國ノ慣習條約又ハ裁判上ノ法則中獨立國ハ  
其法則ニ依リ平時並ニ戰時ニ於テ其權利義務ヲ確メ其國交ヲ爲スニ於テ之ヲ



遵守ス可キモノニシテ諸國民ノ意思ニ基キ其承認ニ出テタルモノトシ「ローレンス」ハ文明國一般團體ニ於ケル國家相互間ノ行為ヲ定ムル規則ナリトセルカ如ク或ハ客觀的或ハ主觀的ノ定義ヲ下シ其定義タル人々ニ因リテ之ヲ異ニセラルノ觀ナキニ非ラス然レトモ凡テ定義ナルモノハ客觀的ニシテ外物ト區別スヘク主觀的ニシテ其内容ヲ示スヘキモノナルヲ以テ若シ余ニ強テ國際公法ノ定義ヲ下スヘキコトヲ要ムル者アラハ余ハ國際公法トハ文明國社會ニ行ハルハ國家相互間ニ於ケル行為ノ規則ニシテ列國ハ承認ニ由リ遵守セラルモノナリト云ハントス

### 第三項 國際公法ノ基礎

前述ノ如ク神法ニアラス自然法ニアラス單ニ文明國ニ於ケル德義並ニ其對外生活ノ反響タル國際公法ハ其法則ノ基本トスル所ハ那邊ニ存スルカ又國際公法ノ法則ハ政治上優者ノ強制力ヲ附シタルモノニ非ルニ拘ラス如何ナル理由ニ因テテ獨立國間ニ行ハレツアルヤト云ハ、他ナシ列國一般ニ通シ人類ノ天法トシテ如何ナル時代如何ナル國民ト雖モ準據ス可キ法則ノ存在セサルナ

キハ何人モ疑ハサルト同時ニ二時代ニ社會ニ於テ輿論上行爲ノ善惡邪正ヲ區別シ道理ノ存スヘキハ亦何人モ異論ナカルヘシ而シテ國際公法ニ論スル行為ノ法則ハ列國ノ慣例ニ出ラレド條約ニ基ケルトテ問ハス其基本標準トスル所ハ毫モ內國法ノ基礎ト異ナラスレテ均ク常識ノ反響ニ外ナラス此常識ニ基キ國際上ノ慣習先例ニ照シ國民ノ行為ニ付善惡邪正ノ岐ル、所ハ國際公法上權利義務ノ生スル所以ニシテ其法則トスル所ハ文明國ニ行ハル、道理ニ背馳セサル慣例ヲ集合シテ建築セル樓閣ノ如ク其樓閣ノ宏壯及ヒ堅牢ノ程度ハ全ク其建築者タル公法學者及ヒ政治家ノ技術ト其建築ニ用非タル材料ノ良否ニ基クト雖モ其樓閣ノ地盤ト爲ルモノハ其當時ノ社會ニ於ケル道理上ノ正否ニ存スルモノナレハ社會ノ進歩ニ伴ヒ道德ノ發達ト其ニ自カラ變遷シ來リタルハ勿論今後ニ於テモ變遷スヘキモノナルノミナラス現今ニ於テモ亦變遷シツアルモノトス然レハ國際公法ノ強制力ナキニ拘ラス如何ナル理由ニ因リテ獨立國間ニ行ハレツアルカヲ考フルニ元來獨立國ハ互ニ自主平等ニシテ外部ヨリ斯法ヲ遵守テ強制セラルベシトナキモ國家ニ自ラ之ニ犯ステ敢テスルコ

ト能ハス否自カラ進ンテ國際公法ノ遵守ヲ務ムルニ依ルニ外ナラス何トナレハ第十七世紀以來海ニ陸ニ交通ノ便ヲ來シタル今日ニ於テハ文明國ト未開國トヲ問ハス何レノ國家モ其内國ニ關スル業務ヲ整理スル外ニ他國ノ政府並ニ人民ニ對スル關係ヲ避クルコト能ハサル所ニシテ今日領國主義ヲ取り外國ト一切ノ交通關係ヲ遮斷セントスル者アリト想像スルモ其國ニ於テ之ヲ實行セントスルニ際シ先ツ生スヘキハ外國政府並ニ人民トノ交渉ナラサルヘカラス而シテ其交渉ニ於テ全然外國政府並ニ其人民ト關係ヲ絶タントセハ其國ハ其實行ニ付キ非常ノ勞ヲ取ラサルヘカラサルノミナラス宇内ニ星羅セル列國ニ對シテ之ヲ行フハ何レノ國モ到底能ハサル勞務タラサルヲ得ス加之外ヨリシテハ隣交通商ヲ熱望スル他國カ開國ヲ迫ルニ於テハ其國モ遂ニ領國スル能ハサルニ至ルヘシ隨テ方今世界列國中他國ト交通セサル者ナク既ニ列國互ニ交通ヲ爲シ友誼ヲ保ツニ當リテハ猶ホ社會ニ法律ナクシテ親族朋友夫婦ノ關係スラモ安全ニ成立スル能ハサルト同シク列國間ニモ亦行爲ニ付キ一定ノ慣例規則ノナキコト能ハサル所以ニシテ斯ル慣例規則ハ即チ方今國際公法ヲ組成ス

ルニ外ナラス而シテ其法則タルヤ社會ノ公論ニ出テ列國共通ノ利益ニ因リ諸國間ニ承認セラレ尊敬セラル、ヲ以テ國家カ若シ其法則ヲ遵奉セサルニ於テハ實ニ社會一般ヨリシテ德義上ノ批難ヲ受クルノミナラス其法則ニ伴フヘキ利益ヲモ享有スルコト能ハサルハ勿論一般ノ公敵ト爲ル可キヲ以テ方今文明諸國ハ自ラ進ンテ國際公法ヲ遵守スルモノニシテ何レノ國ノ政府並ニ裁判官ト雖モ之ヲ度外視ス可カラサルノミナラス國際關係上内國法ノ解釋適用又ハ内國法ノ規定不完全ナル場合於テモ國際公法ノ法則ニ準據スルノ責任ヲ負フモノトス故ニ北米合衆國ニ於テ國際公法ノ内國法ニ對スル効力ノ關係ハ尙合衆國憲法ノ各洲ニ於ケル法律ニ對スルト全然同一ノモノト看做シ同國政治家并ニ法律家ノ說ニ於テノ國際公法ノ法則ハ同國立法府ノ手ヲ經スシテ合衆國全體ヲ拘束スルモノトシ合衆國ノ文明國間ニ介立スル必要條件トシテ之ヲ遵守ス可キモノト爲シ又内國法ノ解釋ニ關シテモ同國大統領行政長官并ニ裁判官及ヒ檢察長等ノ意見并ニ判決中同國ニ於テ異議ナク一般ニ承認スル所トシテホワートン「國際公法釋義中ニ引用セルモノヲ見ルニ合衆國ノ法律ニ關シテ列國

共通ノ法則并ニ慣例及ヒ國際公法ノ道理ニ違反スル解釋ヲ下シハ避ケ得ヘキ  
 限リ之ヲ避ケサル可カラズ内國ノミニ關スル法令ト雖モ荷モ明白ナル反對ノ  
 條文ナキ以上ハ國際公法ニ準據シテ解釋スヘキモノトセリ此國際公法ニ關シ  
 テ採用スル見解ハ方今文明諸國ノ政府并ニ法律家ノ實際ニ是認スル所ニシテ  
 荷モ國際公法ヲ遵守セラル者アルニ於テハ自ラ文明國國際社會以外ニ立ツ可  
 キモノナルコトヲ知ル可キナリ獨リ英國ニ於テハ「ブラツクス」トラン「モ國際公  
 法ヲ同國普通法ノ一部ト爲シタルニ拘ラス千八百七十六年有名ナル「フランコ  
 ニヤ」事件ニ於テ同國法廷ハ他ノ文明國ト國際公法ニ付キ見解ヲ異ニセリ即チ  
 此事件タル獨逸船「フランコ」ニヤ「號」ト稱スルモノ「ドバー」海岸ヨリ二哩以內ノ  
 所ニ於テ英國商船ト衝突シ之ヲ沈没セシメタルモノナリシカ英國領海ノ區域  
 ニ關シテ問題ヲ生レ法廷ハ國際公法ノ規則ヲ適用ス可キヤ否ヤニ付判事中共  
 說ニ派ニ分レ遂ニ一名ノ多數ヲ以テ同國法廷ハ領海三哩タル國際公法ノ法則  
 ヲ認メタルコトナシト判決セルニ由ル千八百七十八年英國政府ハ領海法ヲ發布  
 シ英國ノ領海ハ國際公法ニ準據シ沿岸ヨリ三哩ト爲シタルヲ以テ今日ニ於テ

ハ英國法廷モ亦國際公法ヲ認識シ居ルハ論ナキニ至リ明治二十七年千島事件  
 ノ判決ノ如キハ國際公法及日英條約ニ依リテ内國法ヲ解釋シタルノ一例ニシ  
 テ我帝國ニ於テモ開國以來戰時平時ノ別ナク自ラ進テ國際公法ヲ嚴正ニ履行  
 シ來リ列國モ亦國際社會ノ一員トシテ我國ニ對シ來リタルモノナレハ文明國  
 國際社會ニ介立スル必要事件トシテ帝國ノ國際公法ヲ遵守スヘキハ論ナク其  
 法則ハ我國家ヲ拘束スルモノナレハ其實行ヲ務ムヘキハ當ニ外交機關ニ止マ  
 ラスシテ立法行政並ニ司法ノ機關モ決シテ之ヲ無視スルコト能ハサルモノト  
 ス

第二章 國際公法ノ淵源

第一項 淵源ノ効力

國際公法ハ未タ成文法ト爲リ居ラサルヲ以テ列國ノ遵守シ亦遵守ノ義務ヲ有  
 スル國際上ノ諸法則ヲ知悉セント欲セハ必スヤ廣ク文明國間ニ實踐シ來リタ  
 ル行爲及ヒ唱導サレ來リタル道理ニシテ一般ノ承認ニ係ルモノニ就キテ之ヲ  
 窺フノ外ナシ而シテ其法則ノ性質ニ至リテハ方今文明國ノ生存ニ關スル必要

條件ナルモノアリ又必スシモ何レノ國ニ取リテモ生存上缺クヘカラサルモノニ非サルモ單ニ國際公法ノ社會ニ於ケル國家ニ取リテ其狀況上必要ト認定セラレタルモノアルノミナラス單ニ道德上ノ性質ヲ有スル慣例ニシテ國際公法ノ法力アルモノト一般ニ看做ルモ、モ、甚カラス而シテ如何ナル慣例如何ナル程度ニ於テ現今新法ノ法則ト爲リ居ルヤハ方今文明國ノ一般ニ承認ヲ發表シタル事實ニ就テ之ヲ證セサルヲ得サルコトナレトモ既ニ國際公法ノ法則ト爲リ居ルモノニ就テハ法學者ハ其法理ニ基キ之ヲ敷衍シテ過去ノ歴史ニ上ラサル事實ヲモ判定シ得クモ其法則ニ反スル慣例ノ新ニ生セサル限リハ一旦確定シタルノ法則ハ其効力ヲ保續ス可キハ多言ヲ要セスシテ明ナリ然ルニ此點ニ關シ問題ノ生スルハ他ナシ既定ノ法則ニ無關係又ハ其法則ニ除外トナル可キ慣習ノ發生スルニ當リ其慣習ノ効果ヲ判識スルノ困難ニシテ若シ其慣例ノ汎ク行ハル、ニ於テハ其價值自ラ大ナル可キモ之ヲ目シテ直ニ國際公法上ノ法則ト看做ス可キモノナルヤ否ヤ殊ニ其慣習ノ相抵觸スル場合ニ於テ其何レヲ採ル可キヤハ一ノ疑問ナリ此問題ヲ解釋スルニ當リ公法學

者中往々條約ニ重ヲ置キ數國ノ締結セル條約上ノ規定ヲ目シテ國際公法ノ法則ト爲ス者アリテ殊ニ其條約中締結國ニ於テ明文ヲ以テ國際公法ノ法則タルヘキコトヲ規定シタルトキハ其條項ハ締結國以外ノ諸國ニ對シテモ効力ヲ有シ第三者タル他國ヲモ拘束スト論スル者ナキニ在ラズ然レトモ此說タル未タ其當ヲ得タルモノニ非ス何トナレハ條約ノ規定ハ單ニ其締結國及ヒ之ニ贊同シタル諸國ヲ拘束スルニ止マリ決シテ第三者タル他國ヲ拘束スルノ理ナキヲ以テ斯ル條約上ノ規定ノ他ノ慣習ニ比シ國際公法ノ淵源トシテ一層價值ヲ有スル所以ハ畢竟締結國カ其自由意思ニ基キ比較的ニ熟考シ條約ヲ嚴正ナル形式ヲ以テ之ヲ表明シタルニ因ルニ外ナラスシテ決シテ規定其モノハ國際公法上ノ法則ナリト謂フコト能ハス近ク之ヲ例セハ千八百七十一年倫敦會議ニ於テ露地、佛、獨、英、伊、土ノ七國カ調印セル條約中ニ於テ何レノ國ト雖モ條約締結國ハ對手國ノ承諾ナクシテ條約上ノ義務ヲ免レ又ハ其條款ヲ變更スルコト能ハサルヲ以テ國際公法ノ法則ト明定セルニ拘ラス明治二十五年我國ハ葡國ノ承諾ナキニ先チ日葡條約中ニ規定セル同國領事裁判權ヲ廢棄シタルハ其一

例ナリ之レ全ク我國自衛權ヨリ生シタル正當ノ行爲ニシテ倫敦會議ニ預カラサル我國ニ於テハ倫敦條約ノ規定ノ爲メニ拘束セラレルコトヲ以テナリ要スルニ國際公法ノ法則ハ諸國一般ニ承認シタルコトヲ要シ而シテ其法則ハ諸國實踐上ノ慣習ヨリ出テタルト條約其他ノ明文ヨリ出テタルトヲ問ハス又其法則ノ淵源如何ニ因リテ効力ニ異動ヲ來スコトナク均シク其慣行ニ就キ列國ノ明示又ハ默示ノ承認アラテ始メテ斯法ノ法則ト爲ルモノニシテ其法則ノ勢力ニ至リテハ偏ニ國際社會ニ在ル文明國ノ同一意見ヲ有スル者ノ多少ト其意見ノ實行セラレ來リタル年月ノ長短等ニ因リ大小ノ差異アルニ過キス

第二項 淵源ノ種類

今國際公法ノ法則ノ淵源タルモノヲ列舉スレハ左ノ如シ  
 第一 斯法ニ關スル有力ノ著書  
 第二 諸國ノ同意ニ係ル慣習又ハ行爲ニ就テハ常ニ注意留目シ且列國一般ノ贊同セル法則並ニ其變更ヲモ遺漏ナク著書中ニ記

述シ併セテ之ニ關スル自家ノ意思ヲ吐露スルヲ意ララス而シテ其該博ナル學識ニ依リ詳論シタル所ハ政治家其他斯ル事件ニ關係ヲ有スル當局者ヨリモ公平ナル判斷ヲ下シ以テ社會ノ須ラク取ルヘキ行爲ノ方針ヲ指示スルモノ古來枚擧ニ違アラヌ是等ノ學說ハ列國間ノ實際問題ニ付キ往々之ヲ引用シ又ハ承認スル所ト爲リ隨テ諸國間ニ漸ク實踐セラレ遂ニ斯法ノ一部ヲ形成シタルモノ甚カラス例ヘハ「グロシヤス」ノ戰爭ノ法則ニ於ケル「ペンケル」シヨ「イク」領海ニ於ケル「バテル」ノ中立ニ關スル法則ニ付キテ唱導シタル所ヲ今日國際公法ノ原則ヲ置キタルカ如シ

第二 條約同盟通商其他ノ諸條約  
 獨立國間ニ締結スル是等條約ノ明文ヲ以テ古來成立シ來リタル列國間ノ慣習ヲ表明シ若クハ變更シ或ハ新ニ其行爲ヲ規定スルモノ尠カラス而シテ其條約ノ規定ハ素ヨリ各締結國ノモヲ拘束スルニ止マルト雖モ其規定ノ存續スルトキハ之ニ準據シテ以テ其締結國間ノ爭議ヲ決定シ得可ク又多數ノ獨立國間ニ於テ其規定ニ準據スル下キハ列國間ニ生シタル爭議ニモ之ヲ援キ



シ其是非ヲ判定スルニ重リ途ニ列國一般ニ其道理ヲ承認スルニ於テハ從來ノ慣習モ之カ爲ニ一變シ新ニ法則ヲ生スルモノニシテ例ヘハ千八百六十四年ゼネバ條約又ハ千八百九十年亞弗利加奴隸商業ニ關スルブルツセル決議ノ如ク文明諸國ノ之ニ加盟スルモノ一般ト爲ルニ於テハ其規定スル事項ハ自カラ國際公法ノ法則ト爲ルモノニシテ近世紀ニ於テ國際公法ノ重要ナル變遷並ニ進歩ハ全ク諸國相互間ノ戰時及平時ノ事項ニ關スル諸條約或ハ列國會議ノ結果タル條約ニ基因スルモノ其大部分ヲ占ム

第三 通商交戦其他外國ニ關係ヲ有スル事項ニ付キ列國ノ法令

各獨立國ハ戰争中其派遣ニ係ル巡邏艦ノ行爲又ハ拿捕物ノ處分等ニ關シテハ古來他國ニ對シテ結フテ避クルカ爲メ豫メ諸國ニ共通ナル慣習ヲ參照シ之カ規定ヲ設クルヲ常トス亦通商航海其他外國ニ關係ヲ有スル内國法ノ規定ノ如キ國際問題ノ生シタル時ニ當リ對手國ハ之ヲ援用シ其是非ヲ論シ其道理ハ遂ニ列國一般ニ傳播シ自ラ斯法ノ淵源トナ爲ルモノ尠カラス例ヘハ千六百八十一年佛國路易第十四世ノ海上法ノ如キハ千七百六十三年「パリ」

ノ著書中ニモ多ク其規定ヲ引用シ英國法廷モ其規定ニ依リテ判決シタルモノ多ク佛國ニ於テハ自國ノ裁判所ニ關スル規定ナルモノ年ヲ追ヒテ遂ニ國際公法ノ法則ノ基礎ト爲リシモノニシテ千八百六十三年米國ノ陸軍訓令ノ如キモ其規定ノ方今戰時國際公法ノ淵源ト爲リタルモノ少カラズ

第四 海事法廷及ヒ拿捕物裁判所並ニ合同又ハ仲裁裁判所ノ判決

諸國海事法ノ法廷又ハ拿捕物裁判所ニ於テ審理スル所ノ事項ハ單ニ自國民又ハ自國財産ニ關スルモノ、ミニ限ラス他國民及ヒ其財産ニ關係ヲ有スルモノ甚シトセス殊ニ戰争中ニ於ケル事項ニ關シテハ中立國及ヒ敵國人民並ニ其財産ニ關係ヲ有スルコト夥シキヲ以テ是等ノ法廷ニ於テ與ヘタル判決ハ最も慎重ヲ加ヘ且ツ國際公法上正確ナル道理ニ準據シタル者頗ル多キニ因リ例ヘハ英國ニ於ケル「ストーヴェル」[判事佛國ノ「ボルタリ」]判事ノ如キハ其判決ハ諸國法廷ノ模範ト爲リ列國モ斯ル他國ノ海上法廷又ハ拿捕物裁判所ノ判決ヲ援用シテ判決ヲ爲スニ於テ自ラ國際公法ノ一部ヲ爲スニ至ルモノトス又諸國間ニ葛藤ノ生シタル場合ニ於テ近世最も盛ニ行ハル、仲裁裁



判即チ其爭議ヲ第三國ノ判決ニ一任シ又ハ數國互ニ委員ヲ選ヒテ之ヲ判定セシメ或ハ干與國ノ同意ニ因リ合同裁判所ヲ開キ以テ其爭議ヲ決定スルコトアリ是等法廷ノ與フル判決ハ豫メ當事國互ニ後日異論ヲ唱ヘサル旨ヲ約定スルモノナレハ其審理判定モ自ラ苟且ニ附セザルヲ以テ國際公法上非常ノ勢力ヲ有シ自ラ斯法ノ淵源ヲ爲スニ至ルモノ多シトス

第五 外交文書並ニ政事家又ハ法律家ノ意見書

國際上外交文書ノ往復又ハ政事若クハ法律家ノ外交ニ關スル意見ハ其問題ト爲リ居ル特種ノ點ニ關シテ價值ヲ有スル材料ヲ包含シ其國ノ意見ヲ細密ニ説明セルモノ尠カラス殊ニ外交當局者カ其國ノ國會ニ於テ爲シタル説明又ハ國際問題ニ付一國ノ他國ニ對シ公ノ談判ヲ開示スルニ際シ先ツ自國學者ノ意見ヲ聽キ之ニ依リテ行動スルハ諸國一般ニ行ヒ來リタル所ニシテ其意見書ニ載スルモノ、如キ亦自ラ國際公法上ニ勢力ヲ有シ遂ニ斯法ノ一部ト爲レルモノ少カラス

第六 列國外交ノ歴史

國際公法ノ法則ハ全ク慣例ニ基クモノナルヲ以テ其慣例ヲ知ルニ就テハ諸國間ニ行ハレタル事實ノ歴史ニ依ルノ外ナキヲ以テ歴史ナルモノハ自ラ國際公法ノ研究上相分離スヘカラサル關係ヲ有シ現ニ「グロシヤス」始メ國際公法學者ノ其法則ヲ唱導シタルハ全ク歷史上ノ事實ニ據リタルニ過キス凡テ歴史ハ國民ノ行爲ニ關シ一般ニ贊同ヲ受ケタルモノト批難攻撃セラレタル事實トフ問ハス之ヲ列載スルモノナレハ國際公法ノ法則ノ成立ヲ明ニシ併セテ其解釋ノ當否並ニ適用ノ是非ヲ判明ナラシメ隨テ斯法ノ進歩ヲ促スモノナルヲ以テ自ラ斯法ノ一淵源タラサルヲ得ス

第三章 國際公法ノ沿革

第一項 國際公法ノ發達

法學者ホラプス並ニ英國宰相バーマルストン「カ人類ハ爭鬪動物ナリト斷言セルハ稍極端ニ失スル嫌ナキニ非サレトモ凡ソ利害關係ノ相衝突スルハ人類又ハ人類團體間ニ於テ少カラサル現象ナルニ拘ハラス其衝突ヨリ起ルヘキ爭鬪ヲ避ク互ニ平和ノ生活ヲ爲スニ至ル所以ヲ考フレハ第一其體力上對手者ニ對シ

ヲ能ク争闘ヲ爲スコト能ハサルカ第三宗教道德其他精神的ノ作用ニ因リ争闘ヲ爲スコトヲ自ラ欲セサルカ第三法律其他自己以外ノ力ニ依リ争闘ヲ避タルコトヲ強制セラル、カ此三者中何レカ其一ニ出テサルコト能ハス而シテ人類又ハ人類團體ノ争闘ニ從事スルニ當リテハ互ニ自己防衛ニ急ムシテ他人ノ生命財産ノ存否ニ顧慮スル邊ナキカ故ニ隨テ争闘ヲ爲ス者ニ對レテ自他ノ自由ト權利ノ關係ヲ論スル法律思想ノ發生ヲ期シ難キハ亦自然ノ勢ナルカ如シ故ニ列國間ニ行ハル、國際公法ノ歴史ヲ考フルニ始メテ其萌芽ヲ生レタルハ第十七世紀ニ於ケル(ウエストハリヤ條約ニ依リ歐洲平和ノ基礎ヲ開キタル時ニ於テシ)又其發達モ亦千六百二十六年(グロイヤス)ノ戰爭及平和ト名タル著書ヲ公ニモ主トシテ戰時ニ於ケル國際法ヲ唱導シ爾來數多ノ學者輩出シ斯法ノ發達ニ關シ力ヲ盡シタリト雖モ現今平時公法ノ進歩ト來リタルニ反シ戰時公法ハ尙不完全ノ情態ヲ脱セサル所以ニシテ要スルニ國際公法ノ發達タルヤ列國對立シテ其交通類繁ト爲リ隨テ其利害關係ノ衝突アルニ拘ハラヌ互ニ平和純生活ヲ營ムニ於テ甫メテ其萌芽ヲ出シ其成育ヲ來シ延テ戰時ニ其適用ヲ及ホ

スニ至リタルニ外ナラス然ルニ列國ハ各自主獨立ナルヲ以テ其利害ノ衝突スルニ當リ前述第三ノ場合ニ於ケル如ク自己以外ニ其争闘ヲ避ケシムルノ強制力ナク亦其葛藤ニ付テモ當事者ハ互ニ其是トスル所ヲ是ト爲シ他ニ之カ曲直ヲ判定スル者ナキヲ以テ第二ニ所謂宗教道德等ヲ以テ平和ニ終局セシムルノ力モ甚タ薄キコトナレハ斯ル場合ニ際シ當事者雙方ニ於テ互ニ争闘ヲ避ケ平和ノ生活ヲ維持シ得ルノ體力即チ列國ノ實力互ニ相敵シ濫リニ争闘ヲ試ミ能ハサルニ由リテ甫メテ生スヘキモノナレハ國際公法ノ發生ハ歐洲ニ於テ勢力均衡ノ生シタルニ基キ其發達モ勢力均衡ノ時代ニ之ヲ見ルヲ得又其法則ノ完全ニ行ハル、モ列強對立シ其勢力互ニ均衡ヲ維持スルモノ、間ニ於テスルコトハ古今歴史上ノ事實ニ徴シ顯著ナルカ如シ

東洋諸國ニ在リテハ近世ニ至ル迄外國ト交通シタル事蹟極メテ少ク古來各國孤立シ更ニ交通上利害ノ關係ヲ有シタルコト稀ナルニ因リ隨テ國際上權利義務ノ觀念ヲ惹起シタルコトナク獨リ支那ニ於テハ戰國又ハ三國ノ如キ數國對立シタル事蹟ヲ存スレトモ是レ周末及ト漢朝瓦解ノ餘ニ出テ全國統一ニ至

ル迄ノ短日月ニ於ケル群雄爭鬪ノ歴史ニ止マリ未タ列國ノ基ノ永久的ニ確定  
 セレコトナキニ因リ其間ニ於テ斯法ノ萌芽タモ發生シタルコトナク又發生ス  
 ルノ理ナシ故ニ方今國際公法ナルモノハ全ク歐洲耶蘇教國間ニ發生シタル法  
 則ニシテ近世ニ至リ亞米利加諸國并ニ東洋諸國モ其伴ニ入りタルニ外ナラ  
 ス而シテ歐洲ニ於テモ歴史アリテヨリ以來或ハ隣交或ハ戰爭ニ關シ幾多ノ好  
 誼法式等ノ行ハレタル事實アルハ東洋ト其跡ヲ同クスト雖モ斯法ノ發生シタ  
 ルハ實ニ千六百四十八年ウエストハリヤ條約以後ニシテ其以前ニ於テハ獨立  
 國ト獨立國トノ間ニ於テ何タル法律思想ノ生シタル事實ナキカ如ク之ヲ歴史  
 ニ徵ズルニ希臘時代ニ於テハ希臘市民ト外人トノ關係アリ羅馬共和時代ニハ  
 羅馬人ト外人トノ關係アリ羅馬帝國時代ニハ帝國ト領國トノ關係アリ同帝國  
 滅亡ノ後ニハ人種ト人種トノ關係アリタルノモニシテ獨立國ノ間ニ權利關係  
 ノ發生シタルハ羅馬帝國滅亡シ日耳曼帝國衰頽シ羅馬法王ハ其權勢ヲ失シ宗  
 教革命アリテ各宗派對立シ中世以後ニ成立シタル列國間ニ於テ國力并ニ宗教上  
 ノ勢力互ニ均衡ヲ維持スルニ至リ甫メテ歐洲列國ハ昔日ノ如ク羅馬又ハ日耳曼

附 錄

左ノ一篇ハ校長梅博士カ過日本校ニ於テ講演セラレタルモノニ係ル唯筆  
 記粗漏ニシテ講演ノ趣旨ヲ盡サ、ルモノアルヘシト雖モ是レ固ヨリ筆者  
 上ノ罪ニシテ博士ノ知ル所ニアラサルナリ讀者幸ニ之ヲ諒セヨ

占有ノ訴

執筆者 小田 幹 治 郎 識

新民法ノ認ムル占有ノ訴ヲ分チテ三種トス

- 第一 占有保持ノ訴
- 第二 占有保全ノ訴
- 第三 占有回收ノ訴

是ナリ

第一 占有保持ノ訴 民法第百九十八條ニ於テ此訴ノ性質ヲ規定セリ曰ク  
 占有者カ其占有ヲ妨害セラレタルトキハ占有保持ノ訴ニ依リ其妨害ヲ  
 停止及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

附錄 占有ノ訴

ト即チ此種ノ訴ハ占有ニ對シ現ニ妨害ヲ受ケル場合ニ之ヲ提起スヘキモノナ  
リ例ヘハ予カ一ノ家屋ヲ占有スルニ當リ暴行ニ訴ヘテ之ヲ奪取セントスル者  
アリトセハ予ハ此訴ヲ以テ其暴行ヲ止メシムルコトヲ得ヘシ尙其暴行ニ因リ  
テ家屋ヲ破壊シ若クハ予又ハ予ノ家族ニ負傷セシメタルトキハ此訴ヲ以テ同  
時ニ損害ノ賠償ヲモ請求スルコトヲ得ヘシ要スルニ妨害ノ停止ト損害ノ賠償  
ヲ併セテ請求スルノ訴ナリ

第二 占有保全ノ訴 此訴ハ民法第九十九條ノ規定スル所ナリ曰ク

占有者カ其占有ヲ妨害セラルハ其處アルトキハ占有保全ノ訴ニ依リ其妨  
害ノ豫防又ハ損害賠償ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

ト一言ニシテ言ヘハ將來ノ妨害ヲ豫防スルタメノ訴ナリ例ヘハ予ノ占有セル  
土地ノ隣地ニ於テ極メテ高層ニシテ而モ不堅牢ナル建物ヲ建築セントスル者  
アリトセンニ予ハ他日ノ危険ヲ慮リ之ヲ堅牢ナル建築ニ改メシムルカ若クハ  
相當ノ豫防工事ヲ施サシムルノ必要アリ占有保全ノ訴ハ實ニ斯ノ如キ場合ニ  
提起スルモノナリ然レトモ予ハ必スシモ其豫防ヲ請求スルコトヲ欲セス事

他日損害ヲ生ズル場合ノタメ豫メ損害賠償ノ擔保ヲ請求シ置カント欲スルコ  
トアルヘシ是ヲ以テ法律ハ妨害豫防ノ請求ニ代ヘテ損害賠償ノ擔保ヲ請求ス  
ルコトヲ許セリ而シテ此擔保ハ後日賠償ヲ爲サシムルニ當リ義務者カ之ヲ肯  
セサルカ若クハ無資力ナル場合ニ於テ甚タ其必要ヲ見ルヘク保證人ニテモ可ナ  
リ質ニテモ可ナリ抵當ニテモ可ナリ若シ之ニ關シテ爭アルトキハ裁判所ノ判  
定ニ一任スヘシ要スルニ此訴ハ將來ノ妨害ニ對シ豫防ヲ請求スルカ又ハ損害  
賠償ノ擔保ヲ請求スルカ二者ノ一ヲ選ヒテ之ヲ提起スヘキモノナリ

第三 占有回收ノ訴 民法第二百條第一項ニ曰ク

占有者カ其占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回收ノ訴ニ依リ其物ノ返還、及  
ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

ト是レ占有回收ノ訴ヲ規定セタルモノニシテ此訴ハ現在ノ妨害ニモアラス又  
將來ノ妨害ニモアラス既ニ過去ニ屬シタル妨害ニ對シテ起スヘキモノ即チ既  
ニ占有ヲ奪ハレタル後ニ提起スヘキ訴ナリト是レ前二種ノモノト大ニ其性  
質ヲ異ニセル所ナリ今占有ヲ奪ハレタル者ハ先ツ其占有物ヲ取還スノ必要ア

リ而シテ占有ノ侵奪ハ同時ニ損害ヲ生スルヲ常トス例ヘハ子ノ家屋ヲ侵奪シ  
テ子ヲ退去セシメタル者アリトセンニ予ハ是レカタメニ新ナル家屋ヲ取得シ  
若クハ借用シテ之ニ移轉セサルヘカラス爲ニ多少ノ費用又ハ勞力ヲ要スル而  
已ナラス暴行ヲ受ケテ疾病創傷ヲ醸シタリトセハ更ニ醫藥ノ料ヲ要求セザル  
ヘカラス其他或ハ家具ヲ破損スルコトモアルヘク或ハ營業ヲ停止スルコトモ  
アルヘク其損害固ヨリ一ニシテ足ラス斯ノ如ク占有ノ侵奪ト同時ニ許多ノ損  
害ヲ生スルヲ以テ占有回收ノ訴ハ占有物ノ返還ニ並セテ損害ノ賠償ヲ請求ス  
ルヲ目的トス

以上三種ノ訴ハ其區別甚タ明了ニシテ現在將來及ヒ過去ノ三場合ヲ以テ之ヲ  
分テリ此明了ナル區別ハ實ニ新民法カ始メテ採用シタル所ニシテ至極學理ニ  
適合シタルモノトス泰西諸國ニ於テモ羅馬法以來ノ沿革ニ因リ約ソ三種ノ訴  
權ヲ認メタリト雖モ未タ斯ノ如ク明了ナル學理ノ區別ニ從ヒシモノアルヲ見  
ス例ヘハ占有保持ノ訴ノ如キモ時トシテハ過去ノ妨害ニ對シテモ尙之ヲ許ス  
コトアリ又將來ノ妨害ニ對シテモ我占有保全ノ訴ノ如キ一定ノ訴權ヲ認メ

ス羅馬法ニ於ケル占有保全ノ訴ニ類スルモノハ恰モ舊民法ニ於ケル新工告登  
訴權ニ近似シ其區域狹隘ニシテ廣ク將來ノ妨害ヲ豫防スルニ足ラザリシナリ  
右ノ如ク泰西諸國ニ於テハ既ニ二千年以來ノ沿革ヲ有スルニモ拘ハラズ今日  
ニ至ルマテ絶エテ進歩ヲ爲シタルノ形跡ナク偶マ進歩シタル學說ヲ見ルコト  
アルモ是レ亦一般ニ行ハレスシテ久シク舊套ヲ守レルノ觀アリ之ニ反シ我新  
民法ハ斯ノ如キ沿革上ノ缺典ヲ襲クノ必要ナク殊ニ苟モ新ニ法典ヲ制定スル  
以上ハ最モ真正ナル學理ト最モ實際ニ便宜ナル制度トヲ採用スルノ必要アル  
ヲ以テ學理ノ正鵠ニ依リ實際ノ便宜ニ鑑ミテ現在將來及ヒ過去ノ三場合ニ區  
別レ以テ占有保護ノ完全ヲ期セリ然リ而シテ此三種ノ訴ハ如何ナル人ニ對シ  
テ提起スルコトヲ得ルカ新民法ニ於テハ占有權ヲ以テ一ノ物權トセリ物權ハ  
何人ニモ對抗スルコトヲ得ルノ權利ナリ故ニ占有權ノ一タル占有ノ訴權モ亦  
何人ヲ問ハスシテ之ヲ對抗スルコトヲ得ルヲ以テ原則トス唯之レニ一二ノ制  
限アリ

其一 損害賠償ノ請求ハ元來物權ノ訴ニアラスレテ性質上債權ノ訴ナリ故ニ



損害ヲ加ヘタル者若クハ其承繼人ニ對スルニアサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
其二 占有回收ノ訴ニ限リ善意ノ承繼人ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス例  
ヘハ甲ナル者アリテ予ノ占有セル家屋ヲ侵奪シタリトセンニ予カ甲ニ對シテ  
占有回收ノ訴ヲ起スコトヲ得ルハ言ヲ待タス然レトモ若シ甲ニシテ之ヲ乙ナ  
ル者ニ賣渡シ既ニ其引渡ヲ了リテ其家屋カ乙ノ占有ニ歸シタルトキハ予ハ乙  
ノ善意ナルト惡意ナルトニ因リ或ハ此訴ヲ起スコトヲ得ヘク或ハ之ヲ起スコ  
トヲ得サルナリ今乙ノ惡意ナル時即チ乙カ甲ノ侵奪ヲ知レルトキハ予ハ之ニ  
對シテ此訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシト雖モ若シ之ニ反シ乙カ其實事ヲ知ラサ  
ルトキハ予ハ乙ニ對シテ此訴ヲ起スコトヲ得ス是レ占有ノ訴ナルモノ、本質  
ヨリ生スルノ結果ニシテ毫モ怪シムニ足ラス何トナレハ占有ノ訴ナルモノハ  
占有保護ノ方法ナリ占有ノ保護ハ占有ナル事實ヲ保護スルヲ以テ本旨トス詳  
言セハ占有ナル事實ヲ保護センカタメニ種々ナル權利ヲ附與スルニ過キス然  
ルニ此場合ニ於テハ占有ハ既ニ侵奪者ノ承繼人ニ移轉シ原占有者ハ事實ニ於  
テ最早占有者ナリト言フコトヲ得ス此一點ヨリスルモ法律ハ原占有者ヲ保

雜 錄

本校校外生教授法ノ新機軸

實業ニ従事セルモノハ商法、經濟學并ニ財政學ノ研究ヲ要シ(第貳部)一般人士ハ民法及國際私  
法ノ研究ヲ望ムヘク民事訴訟法ノ如キハ司法官、辯護士等ノ職ニ就クニアラサレハ之ヲ學ブノ  
要ナシト雖モ素是私法ノ運用法ナルヲ以テ其所在民法ニ近シト云ハサルヘカラス(第一部)憲法  
行政法、刑法、刑事訴訟法ノ如キハ行政、司法ノ位地ニ在リテ始メテ其要ヲ感スヘク實業家又ハ  
一般國民トシテハ其必要尠ナカルヘシ然ルニ從來ノ校外生規則ハ學年ニ因リテ三部ニ分チ何人  
ニ向テモ法律學ノ全般ヲ教授セントセリ此事タルヤ繁多ナル一般人士ノ能ハサル所又實業家ノ  
急務トセサル所ナルヲ以テ浩瀚ナル講義錄ハ徒ニ机上ニ累々トシテ其弊ヤ遂ニ特種ノ必要アル  
部門ヲモ研究セサルニ至ル本校ノ新機軸トスル所ハ此必要ヲ充シ此弊ヲ防キ各特種ノ方面ニ向  
テ適當ノ部門ヲ教授シ若シ之ヲ合スレハ法律學ノ全般ニ曉通スルヲ得セシメントスルニ在リ其  
學科及ヒ擔任講師左ノ如シ



第壹部

第一編總則	法典調查會委員長 法學博士 梅 禮次郎君
第二編物權	自第六至第七條 大 審 院 檢 事 法 律 學 士 小 宮 三 保 松 君
第三編債權	自第七至第十條 講 師 法 學 士 中 山 成 太 郎 君
第四編親屬	自第十至第十四條 法典調查會委員長 法學博士 富 井 政 章 君
第五編繼承	自第十五至第十八條 法典調查會委員長 法學博士 富 井 政 章 君
第六編訴訟	自第十九至第二十二條 大 審 院 判 事 法 律 學 士 掛 下 重 次 郎 君
國際私法	法典調查會委員長 法學博士 寺 尾 亨 君
民事訴訟法	法典調查會委員長 法學博士 前 田 孝 階 君
商事訴訟法	法典調查會委員長 法學博士 遠 藤 忠 次 君
裁判所構成法	法典調查會委員長 法學博士 兩 角 廣 六 君
法 理 學	法典調查會委員長 法學博士 櫻 積 謙 重 君

第貳部

(商法ノ分類ハ破産ヲ除クノ外新商法ニ依リテ)

商	第一編自第一章至第六章會社及組合 與 南 務 會 事 官 法 學 士 杉 木 貞 次 郎 君
法	第二編自第七章至第十一章保險 東 京 監 理 院 部 長 法 學 士 齋 藤 十 一 郎 君
經 濟 學	第三編自第十二章至第十三章手形 東 京 監 理 院 部 長 法 學 士 富 谷 銆 太 郎 君
財 政 學	法典調查會委員長 法學博士 富 谷 銆 太 郎 君
憲 法	法典調查會委員長 法學博士 富 谷 銆 太 郎 君
刑 事 訴 訟 法	法典調查會委員長 法學博士 富 谷 銆 太 郎 君
刑 法	法典調查會委員長 法學博士 富 谷 銆 太 郎 君
行 政 法	法典調查會委員長 法學博士 富 谷 銆 太 郎 君
國 際 公 法	法典調查會委員長 法學博士 富 谷 銆 太 郎 君

法典調查會委員長 法學博士 富 谷 銆 太 郎 君

附言 商法ハ新商法ニ據リテ開講シ刑法、刑事訴訟法、民事訴訟法ノ講義ニ於テハ改正ノ要旨ヲ斟酌宜明スヘシ、法例ハ國際私法其他ノ法律ヲ説述スル間ニ自カラ學得スヘキモノナルヲ以テ特ニ一講座ヲ開クノ要ナク法學通論ハ別ニ豫約ノ方法ヲ以テ出版シ從來トハ大ニ其模形ヲ革メ更ニ其完全ヲ期ス

### 本校ノ特色

所在 本校ハ麴町區富士見町ニ在リ高燥ニシテ閑靜ナリ若シ夫レ四隣ニ車馬軋リ弦歌酒食ノ間ニ身ヲ置カハ便ハ即チ便ナリト雖モ學業鍛鍊ノ道ニアラサルナリ本校ハ尙校認下宿舍ヲ設ケテ學生ノ品行ト下宿業者ノ弊風トヲ監督矯正ス

講師 本校ハ富井、梅南博士其他大學教授諸氏并ニ當世ノ大家ノ創設ニ係ルモノニシテ最も閱歷ニ富メリ故ニ其盡瘁セラル、コト亦尋常ニアラス見ヨ我國三大大博士ノ聲咳ニ接スルコトヲ得ルハ本校ト東京帝國大學ヲ除クノ外果シテ何レニ在ル乎

卒業生 本校ハ卒業生ノ品行方正ニシテ學力優秀ナルヲ以テ稱セラルル判檢事、辯護士、高等文官試験ニ於テア口述試験ニ及第セサルモノナキハ是其結果ナリ

### 校長、校務顧問其他擔任講師ノ肖像

校長梅博士、顧問富井博士及種積博士其他擔任講師ノ肖像ハ漸次講義録ノ中ニ掲クヘシ是登校ノ便ヲ缺ク諸氏ヲシテ其身敷場ニ臨ミ恩師ニ親炙スルノ想アラシメンカ爲ナリ決シテ坊間雜誌ノ感ヲ以テ視ル勿レ

### 本校ノ出版物

本校ハ大ニ出版部ヲ擴張シ諸種ノ付屬法令及ヒ其註釋書ヲ出版シテ時急ヲ充ヌヘシ

本校ハ大審院其他ノ判決例ヲ民刑二部ニ分チ又行政判決例ヲモ出版シ各其要旨ヲ摘録シ以テ正道ノ便ヲ圖ルヘシ

本校ハ校名ヲ以テ責任ヲ負フ所ノ良著書ヲ出版シ讀者ヲシテ萬綠叢中紅一點ノ想アラシメン

### 本校錄事

本校講談會ノ景況 先月二十八日午後一時ヨリ本校講堂ニ於テ例會ヲ開キ法學士有賀長文氏ノ「工業ト其金融機關」法學博士穗積陳重氏ノ「祖先教ト法律」法學博士梅謙次郎氏ノ「失火

者ノ責任「法學博士富井政章氏」ノ選舉名簿ノ確定力」等ノ講演アリ傍聽人無慮二千名定ニ近來ノ盛會ナリシ當日ノ講演筆記ハ順次本講義録ノ附録トシテ讀者ニ頒ツヘシ

校長及ヒ校務顧問歡迎會 新校長梅博士及ヒ新任校務顧問富井博士ヲ歡迎セン爲先月二十九日午後二時ヨリ本校樓上ニ於テ宴會ヲ催シ校友生徒等相會スル者三百餘名佐々木校友會副會長先ツ開會ノ趣意ヲ述ヘ次テ梅校長並ニ富井顧問ノ答辭アリ終ニ吉田校務委員長校務ノ報告ヲ爲シ席ヲ草メテ立食ノ宴ニ移リ一同城壁ヲ撤シ胸襟ヲ開ケテ談笑湧クカ如ク席上信閑雄因郎氏其他二三氏ノ演說アリ黃昏ニ至リテ漸ク散會セリ

次號附録 次號ニハ「占有ノ訴」ノ後半及ヒ本校講談會ニ於ケル富井博士ノ「選舉名簿ノ確定力」ヲ掲載スヘシ

既刊講義録 第一部第一號(五日)第二部第一號(十日)ハ既ニ發行シ其目錄ハ左ノ如シ

- 第一部
  - 梅博士民法原理 小宮學士民法物權
  - 兩角學士民法債權 掛下學士民法親族 及ヒ附録
  - 前田學士民事訴訟法富井博士契約法
- 第二部
  - 高野學士經濟學 有賀學士財政學
  - 鈴木學士破産法 金井博士經濟學 及ヒ附録

校外生活規則摘要

- 一 本校ノ講義科目ノ種類(圖表者ノ方面ヲ指シテ分列ス)ニヨリテ三編ニ分セリ
- 二 第一編 民法 民事訴訟法 國際私法 裁判所構成法 法理學
- 三 第二編 刑法 行政法 國際公法
- 四 第三編 憲法 政治學 社會學 經濟學 財政學 破産法 民事執行法
- 五 各學科ノ修業年限ニテハ第一編ニ於テ三年ニテ修業スルモノアリ第二編ニ於テ二年ニテ修業スルモノアリ第三編ニ於テ一年ニテ修業スルモノアリ
- 六 校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 七 校長ニシテハ本校ノ校長ニシテ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 八 校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 九 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十一 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十二 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十三 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十四 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十五 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十六 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十七 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十八 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十九 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 二十 校長及ヒ校務顧問ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ

校內生活規則摘要

- 一 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 二 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 三 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 四 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 五 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 六 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 七 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 八 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 九 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十一 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十二 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十三 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十四 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十五 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十六 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十七 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十八 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 十九 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ
- 二十 非常時ニシテハ本校ノ校務ヲ監督スルモノナリ

者ノ責任「法學博士富井政章氏」ノ選舉名簿ノ確定力」等ノ講演アリ傍聽人無慮二千名定ニ近來ノ盛會ナリシ當日ノ講演筆記ハ願次本講義録ノ附録トシテ讀者ニ頒ツヘシ

校長及ヒ校務顧問歡迎會 新校長梅博士及ヒ新任校務顧問富井博士ヲ歡迎セン爲先月二十九日午後二時ヨリ本校禮堂ニ於テ宴會ヲ催シ校友生徒等相會スル者三百餘名佐々木校友會副會長先ツ開會ノ趣意ヲ述ヘ次テ梅校長並ニ富井顧問ノ答辭アリ終ニ吉田校務委員長校務ノ報告ヲ爲シ席ヲ草メテ立食ノ宴ニ移リ一同城壁ヲ攷シ兩誌ヲ開キテ談笑瀟々カ如ク席上信聞雄四郎氏其他二三氏ノ演說アリ黃昏ニ至リテ漸ク散會セリ

次號附録 次號ニハ「占有ノ訴」ノ後半及ヒ本校講談會ニ於ケル富井博士ノ「選舉名簿ノ確定力」ヲ掲載スヘシ

既刊講義録 第一部第一號(五日)第二部第一號(十日)ハ既ニ發行シ其目錄ハ左ノ如シ

- 第一部
  - 梅博士民法原理 小宮學士民法物權
  - 關高學士民法債權 山下學士民法債權
  - 關高學士民事訴訟法 富井博士契約法
- 第二部
  - 高野學士經濟學 有賀學士財政學
  - 鈴木學士破産法 金井博士經濟學

### 校外生規則摘要

- 一 本校ノ講義録ハ科目ノ種類(需要者ノ方面ヲ標準トシテ分類ス)ニヨリテ三部ニ分チタリ
- 一 第壹部 民法、民事訴訟法、國際私法、裁判所構成法、法理學
- 二 第貳部 刑法、刑事訴訟法、憲法、行政法、國際公法
- 三 各部共毎月二回發行シ滿ケ年ヲ以テ完結シ若シ講了セザルトキハ校外ヲ以テ發行ス第壹部ハ毎月五、廿ノ日第貳部ハ十五、廿ノ日第參部ハ二十五、三十ノ日ヲ定刊トス月謝金ノ權校外生ニハ望ニヨリ證券ヲ付與ス(郵券貳錢ヲ要ス)又本校講談會討論會ヲ傍聽スルノ權講義録三部ヲ講了シタルモノハ校外生修業證書ヲ授與ス又此證書ヲ有スルモノハ試験ノ上校内生三年級ニ編入セラル、ノ特權アリ(此證書ナキモノハ二年級ニ入ルヲ得ス)入學金三十錢月謝金各一部ニ付キ三十五錢、全參部ヲ通スルモノハ壹圓トス、月謝金不納ハヶ月ニ及フトキハ退學ト看做ス故ニ講義録ノ再送ヲ望ムモノハ更ニ入學ノ手續ヲ爲スヘシ
- 四 送金ノ節ハ必ス飯田町郵便局宛ニ振出シ受取人ハ和佛法律學校會計課トスヘシ此事ヲ誤ルキハ事務上此ハ必ス各部分校外生ヲ以テ送金受領ノ手續ヲ爲シテハ校外生ヨリ通信ハ必ス各部分校外生又ハ第何部校外生ト封皮明記スルコトヲ知スヘシ
- 五 校外生ハ講義録中ノ疑問ニ付質疑スルコトヲ得質疑ニ付テハ詳細ハ校則ニ因リテ了知ス
- 六 送金ノ節ハ必ス飯田町郵便局宛ニ振出シ受取人ハ和佛法律學校會計課トスヘシ此事ヲ誤ルキハ事務上此ハ必ス各部分校外生ヲ以テ送金受領ノ手續ヲ爲シテハ校外生ヨリ通信ハ必ス各部分校外生又ハ第何部校外生ト封皮明記スルコトヲ知ス
- 七 校外生ハ講義録中ノ疑問ニ付質疑スルコトヲ得質疑ニ付テハ詳細ハ校則ニ因リテ了知ス
- 八 校外生ハ講義録中ノ疑問ニ付質疑スルコトヲ得質疑ニ付テハ詳細ハ校則ニ因リテ了知ス

### 校內生規則摘要

- 一 尋常中學若クハ之ト同等ナル學校ヲ卒業シ又ハ本校乙種ノ入學試験ニ及第シテ本校ニ入學シタルモノハ徵兵猶豫ノ特例アリ
- 二 同盟法律學校生徒ハ本校ニ無試験轉校スルコトヲ得
- 三 入學金貳圓月謝金壹圓五拾錢トス
- 四 本校卒業生ハ判檢事試験ヲ受クルノ資格、特權ヲ有ス

● 注意

● 校外生諸君ニシテ本校へ發送セラル、信書ニハ各自氏名ノ上ニ **第何部校外生**

(第一部校外生又ハ第一)ト明記セラル、ニアラサレハ執務上其煩ニ堪ヘサルノミナラス時ニ或ハ遅延、錯誤等ノ恐ナキヲ保セス故ニ必ス其明記ノ勞ヲ吝ム勿レ

● 爲替ニテ送金ノ節ハ、拂渡局ヲ **飯田町** 受取人宿所氏名 差出人ハ此處ニ受取人ノ宿所氏名ヲ記ス可シトアル也ヲ **和佛**

**法律學校會計課**ト記入セラルヘシ若シ右爲替券ニ誤記、塗抹シタル時ハ振出局ニ就キ訂正ノ證明ヲ得テ送附セラル可シ

● 校外生月謝金(前金)ノ切レタル時ハ其都度講義録ノ封皮ニ **朱印**ヲ押捺シテ發送ス可キヲ以テ朱印押捺セラレタル諸君ハ躊躇ナク送金セラル可シ

司法省 **和佛法律學校會計課**  
指定

明治三十二年二月十四日印刷  
明治三十二年二月十五日發行

編輯者 東京市牛込區矢來町三番地 上野政雄  
發行所 東京市芝區西ノ久保町舟町十一番地 金子鐵五郎  
印刷者 東京市芝區西ノ久保町舟町十一番地 金子活版所  
印刷所

發行所 司法省 **和佛法律學校**  
指定

電話本局 一一七四  
所在 (東京市麴町區富士見) 町六丁目十六番地

明治廿二年十二月九日內務省認可